

# 絵 図 史 料

## 佐伯城跡関連絵図史料一覧（1）

番号	史料名	作成時期 和暦・西暦	
		法量 (cm) タテ×ヨコ	所 蔵
	備 考		
絵図1	〔佐伯城修復願図〕	宝永6年	1709年
		79×76.5	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・願出者は毛利周防守。</li> <li>・佐伯城を描いた絵図では、現時点で最も古いもの。・正式な絵図名称は不明</li> <li>・天守はすでに無く、現況と同様の天守台のみ。三の丸には「只今之居所」とあり、居住場所が移っている。</li> <li>・宝永4年（1707）の地震で崩れた西出丸・登城道の石垣の修復を願い出たもの。</li> <li>・山頂の建築物も実際には大きく損われており、享保13年（1728）までに、これらの修復も行った。</li> </ul>		
絵図2	二之御丸惣地引之図	享保年間	1716～1735年
		135.5×204	佐伯市歴史資料館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝永6年（1709）～享保13年（1728）の修理で作成されたもので、享保12年（1727）頃の作成か。</li> <li>・全体にへら等による昇線がかけられているが、居宅部分は角度が異なり、一旦切り取って貼り直している。</li> <li>・二の丸の建築物の配置を描き、柱位置を■で示す。</li> <li>・二重櫓と大形の平櫓は、壁の一部が石垣天端から外側に出ており、懸造りであったと考えられる。</li> </ul>		
絵図3	〔佐伯城絵図〕	享保17年	1732年
		52.5×77	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・願出者は毛利周防守。</li> <li>・小野英治氏画像提供。・正式な絵図名称は不明。</li> <li>・本丸外曲輪の東と北の斜面が崩れたことを報告するもの。</li> <li>・斜面が崩れたことを「つゝぬけ」（瀬戸内・中国地方の方言）と表記する。</li> <li>・北斜面は、石垣で修復しなければ大破に及ぶ可能性が示される。</li> <li>・北出丸二重櫓が懸造りとして描かれる。</li> </ul>		
絵図4	御城石垣崩破損絵図	享保19年	1734年
		52.5×79	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風雨により本丸外曲輪北の石垣・塀・その下の斜面が崩れ、その修復を願い出たもの。</li> <li>・絵図3に描かれる被災か所と重なるか。斜面部の被害は、長さ、幅を逆に誤記か。</li> <li>・修復の経過や関わった技術者は、文献史料に記載あり。</li> <li>・修復の結果、雛段状の石垣（No.229～238）が築かれる。</li> </ul>		
絵図5	豊後国佐伯城塀石垣下共ニ破損之絵図	享保20年	1735年
		55×82	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・願出者は毛利周防守。</li> <li>・小野英治1973「佐伯城絵図解説二」『佐伯史談』87号より転載。</li> <li>・絵図4と同内容。</li> </ul>		
絵図6	御城并御城下絵図	元文3年	1738年
		281.8×243.6	佐伯市歴史資料館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯城と城下町の全域を詳細に描く。曲輪内部の建築物の外観を描く唯一の図。</li> <li>・塀曲輪を描き、それぞれに長さ・幅を記入する。雄池・麩池や、北出丸と池をつなぐ城道も描く。</li> <li>・三の丸御殿の裏手には庭園があり、池と園路が描かれる。櫓門の前面と御殿との間は石畳となる。</li> <li>・登城道は、三の丸と西出丸・本丸外曲輪をつなぐものと、南東の武家地と本丸外曲輪をつなぐもの2本。</li> </ul>		
絵図7	豊後国佐伯城破損之覚	延享2年	1745年
		82.5×81.9	佐伯市歴史資料館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・願出者は毛利寅太郎。</li> <li>・前年の風雨洪水により本丸外曲輪の石垣・塀に被害が出たため、修理を願い出たもの。</li> <li>・実際にはその他の建築物にもかなりの被害が生じていたことが、文献史料からわかる。</li> </ul>		

## 佐伯城跡関連絵図史料一覧（2）

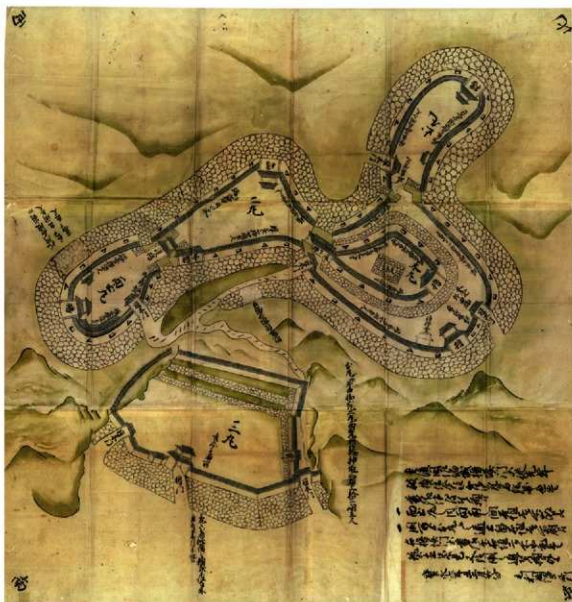
番号	史料名	作成時期 和暦・西暦	
		法量 (cm) タテ×ヨコ	所 蔵
絵図8	豊後国佐伯城破損之覚 ・願出者は毛利彦三郎。 ・「毛利家資料」（佐伯市歴史資料館寄託） ・前年の地震により本丸・本丸外曲輪・西出丸・三の丸の石垣に被害が生じたため、修理を願い出たもの。	明和7年	1770年
		82×82	個人
絵図9	御城内御絵図惣取之図 ・小野英治氏画像提供。 ・三の丸御殿の奥向きの台所を普請した際のもの。 ・各部屋の名称・畳数が記入される。	天保5年	1834年
		58×108	個人
絵図10	三御丸絵図面 ・「毛利家資料」（佐伯市歴史資料館寄託） ・原史料に年号の記載はないが、描かれている間取りが絵図9と一致する。	天保5年か	1834年か
		55.2×82.6	個人
絵図11	尾野上御茶屋之尾崎平地絵図 ・「毛利家資料」（佐伯市歴史資料館寄託） ・享保12年（1727）に三の丸南西の尾根に設けられた尾ノ上茶屋の敷地平面図か。 ・全体の坪数と、要所の幅を記載する。	嘉永2年	1849年
		27.6×41.9	個人
絵図12	豊後国佐伯城破損之覚 ・願出者は毛利安房守。 ・「毛利家資料」（佐伯市歴史資料館寄託） ・前年の地震により本丸・二の丸・西出丸・北出丸・三の丸で石垣や建築物にかなりの被害が生じ、その修理を願い出たもの。	安政2年	1855年
		82.2×86.5	個人
絵図13	御奥御建継 ・小野英治氏画像提供。 ・三の丸御殿の西側（奥部分）のみ描き、間取りは絵図14と一致する。 ・絵図14に記載される、文久2年から3年の御奥の建て継ぎ時のもの。	文久3年	1863年
		58×37	個人
絵図14	三御丸五歩老問之図 ・「毛利家資料」（佐伯市歴史資料館寄託） ・萬延元年（1860）に三の丸御殿の御広間など表向きを建て替え、文久2年（1862）から翌年にかけて奥向きの建て継ぎを行った後のもの。 ・作図者（高浦善太郎）に大分県とあることから、明治以降に複写したものの可能性が高い。 ・三の丸櫓門から御殿の玄関までは、石畳が描かれる。	明治初期	
		91×108.5	個人

## 佐伯城跡関連絵図史料一覧（3）

番号	史料名	作成時期 和暦・西暦	
		法量 (cm) タテ×ヨコ	所 蔵
	備 考		
絵図15	佐伯城下地図（部分）	明治初期か	
		96.5×78（全体）	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野英治1973「佐伯城絵図解説五」「佐伯史談」90号より転載。</li> <li>・原史料は城下まで含む絵図で、「明治維新前文久ヨリ慶応年間」の記入あり。</li> <li>・本丸外曲輪と北出丸を一体に描き、二の丸を狭く、西出丸を実態よりも広く描く。</li> <li>・雄池と雌池をそれぞれ「ワン洞（フチ）」「メン洞（フチ）」と描く。</li> </ul>		
絵図16	県庁五歩壱間之図	明治4年	1871年
		57×83	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野英治氏画像提供。</li> <li>・三の丸御殿が佐伯県庁舎に転用された時のもの。</li> <li>・御積古場や奥向きの一部は描かれておらず、解体されていたと考えられる。</li> </ul>		
絵図17	豊後国佐伯城図	明治初期	
		81×237	しらはく古地図と城の博物館富原文庫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸軍による全国の城郭調査の一環で作成されたと考えられる「陸軍省城絵図」の一部。</li> <li>・山頂部の曲輪形状はかなり正確で、各曲輪の名称と幅や坪数、堀や石垣の長さを細かく記す。</li> <li>・堀・槽は全て漆喰による塗籠で描かれる。</li> </ul>		
絵図18	御山城之図	明治初期か	
		77.6×163.2	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「毛利家資料」（佐伯市歴史資料館寄託）</li> <li>・作図者（高浦善太郎）に絵図13同様に分票とあるため、明治以降に作図されたもの。</li> <li>・曲輪の形状などは絵図17と同一。絵図17を下図としたものか。</li> <li>・堀・堀は下見板張で描かれる。曲輪名や施設名の記入はない。</li> </ul>		
絵図19	鶴谷城之図	明治初期か	
		76×153.5	佐伯市歴史資料館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料裏に「正保」の文字あり。</li> <li>・曲輪の形状や建築物は、絵図18とほぼ同様。</li> <li>・曲輪名や施設の名称が朱字と付箋で示される。</li> </ul>		
絵図20	佐伯藩時代屋敷図	大正4年	1915年
		55.5×55.8	佐伯市歴史資料館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯市教育委員会1998「天祐館遺跡」付図より転載。</li> <li>・大正4年に、聞き取りなどを実施して明治4年（1871）頃の城下町の各屋敷数などの様子を復元したもの。</li> <li>・山頂の曲輪は輪郭のみが描かれ、三の丸から西出丸へ至る登城道がある。</li> <li>・三の丸は御殿と御納戸倉・御書物倉・御書物奉行所の輪郭と、御殿裏の池、稲荷社が描かれる。</li> </ul>		
絵図21	毛利神社風地図	昭和2年	1927年
		27.6×35.5	佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯市に保管されていた「毛利神社創立願一件」の付図。原史料は青焼き。</li> <li>・神社は昭和4年（1929）に落成。</li> <li>・毛利神社の拝殿と神殿の配置を鳥瞰図で描く。</li> <li>・本丸外曲輪から本丸へと登る階段は、この時点では設けられていない。</li> </ul>		

#### 佐伯城跡関連絵図史料一覧（４）

番号	史 科 名	作成時期 和暦・西暦	
		法量 (cm) タテ×ヨコ	所 蔵
	備 考		
絵図22	毛利神社風致図	昭和8年	1933年
		22.4×36	佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯市に保管されていた「毛利神社創立願一件」の付図。</li> <li>・昭和8年、佐伯町から寄付された山頂の土地を、神社の財産として登録する文書に添付されたもの。</li> <li>・本丸の毛利神社拝殿・神殿のほか、本丸外曲輪の東虎口玉に鳥居、二の丸に鳥居と社務所が描かれる。</li> <li>・本丸外曲輪から本丸へと登る階段は、まだ描かれていない。これ以降に設けられたものか。</li> </ul>		
絵図23	御本丸二重御槽三十歩一之図	不明	
		不明	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本丸外曲輪の北側面を描き、槽の左側は外観、右側は内部の柱を描く。</li> <li>・外観は下見板張りで、内転びとなる。石垣の上に土台木を寝かせ、その上に柱を建てる。</li> </ul>		
絵図24	西御丸梁行三拾分一図	不明	
		不明	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西出丸二重槽の西側面を描き、槽の左側は外観、右側は内部の柱を描く。</li> <li>・外観は下見板張りで、内転びとなる。石垣の上に土台木を寝かせ、その上に柱を建てる。</li> </ul>		
絵図25	御槽拾歩一図	不明	
		不明	個人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野英治氏リリース図提供。</li> <li>・二重槽の内部を描くが、場所は不明。</li> <li>・内転びで、石垣の上に土台木を寝かせ、その上に柱を建てる構造は絵図23・24と同様。</li> </ul>		



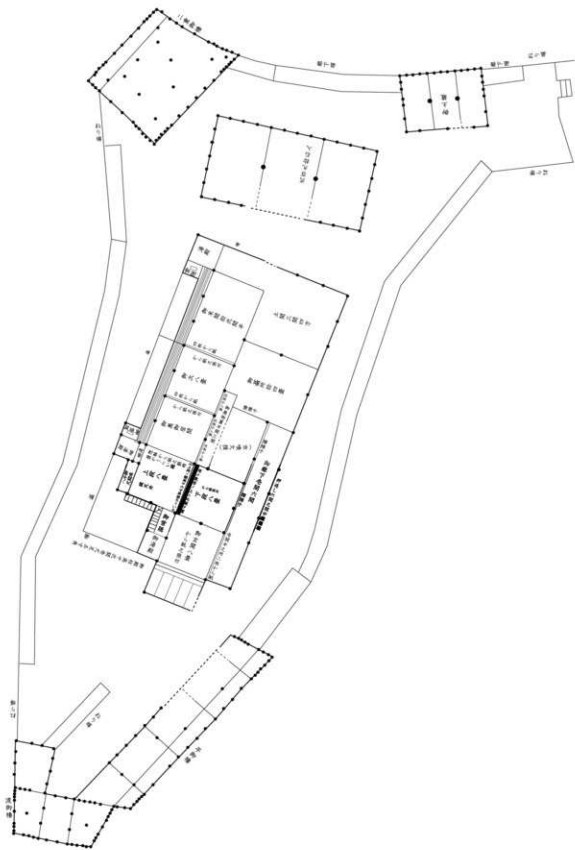
慶應元年五月廿日  
 佐伯國守 佐伯 頼房 繪

慶應元年五月廿日  
 佐伯國守 佐伯 頼房 繪

絵図1 宝永6年（1709）佐伯城修復關原（個人蔵）

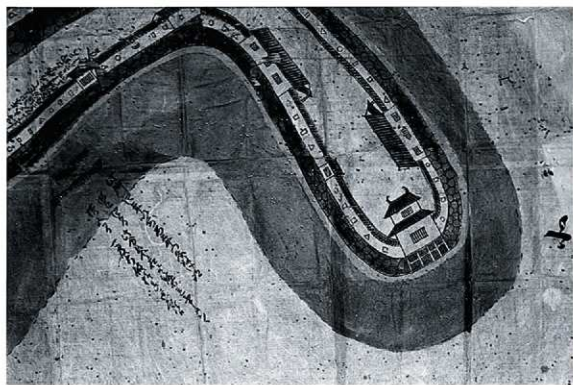
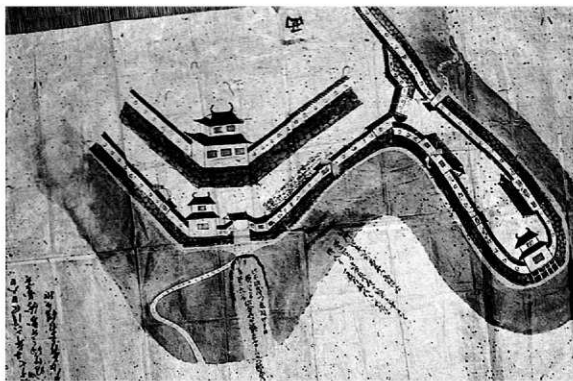


絵図2 享保年間 二之御丸惣地引之図 (佐伯市歴史資料館蔵)



絵図2 享保年間 二之御丸惣地引之図のトレース図

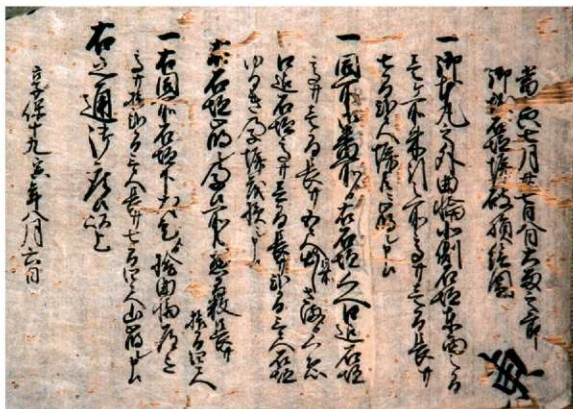




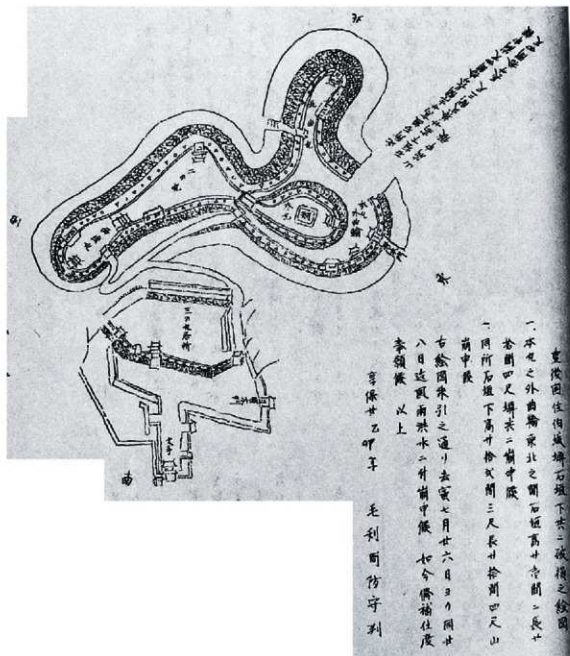
絵図3 享保17年(1732)佐伯城絵図(個人蔵) 小野英治氏画像提供



絵図4 享保19年(1734) 御城石垣崩破損絵図 (個人蔵) (1)



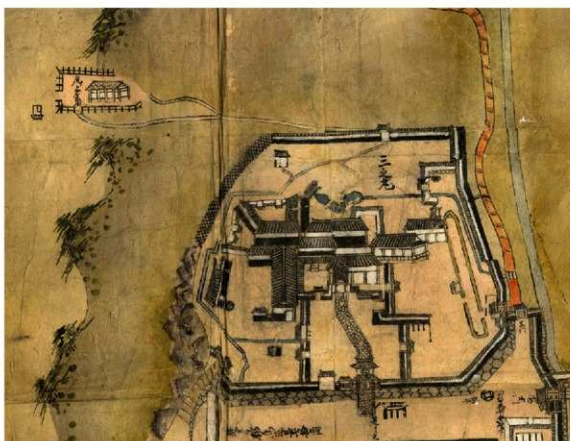
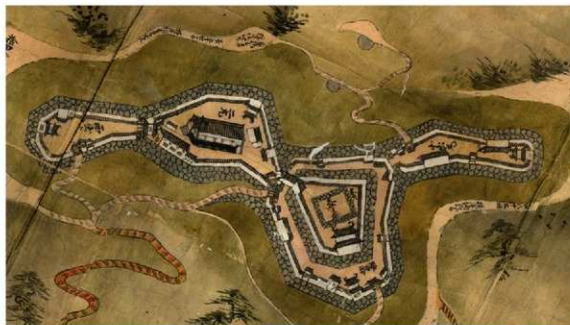
繪圖4 享保19年(1734) 御城石垣塀破損繪圖(個人藏)(2)



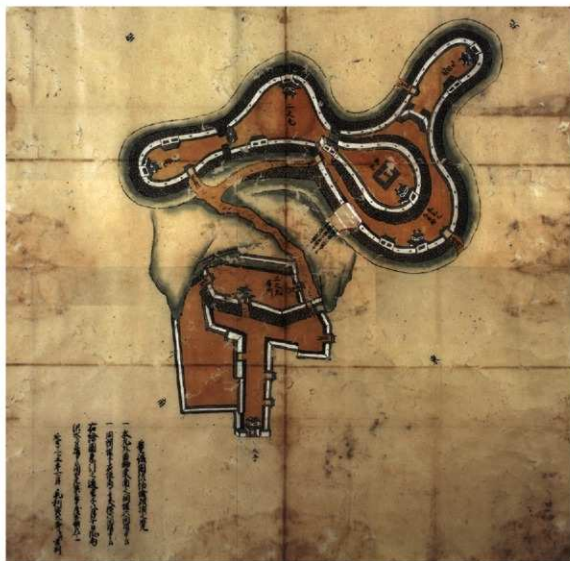
絵圖5 享保20年(1735)豊後国佐伯城塙石垣下共二破損之絵圖(個人蔵)  
 小野英治1973「佐伯城絵圖解説二」「佐伯史談」87号より転載



絵図6 元文3年(1738)御城井御城下絵図(部分)(佐伯市歴史資料館蔵)(1)



絵図6 元文3年(1738)御城井御城下絵図(部分)(佐伯市歴史資料館蔵)(2)



豊後国佐伯城破損之覺

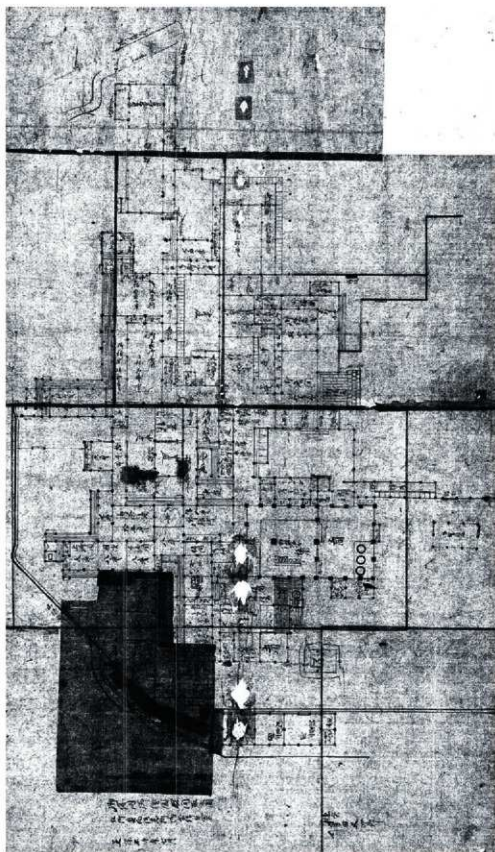
一 本丸外島輪東南之回濠六回濠中  
 一 同濠下在堤向土文控六回濠中  
 右給圖表之通若于八月十日雨  
 洪水崩潰六回濠外島輪外  
 延享二年二月 毛利實文所書別

繪圖7 延享2年(1745)豊後国佐伯城破損之覺  
 (佐伯市歴史資料館蔵)

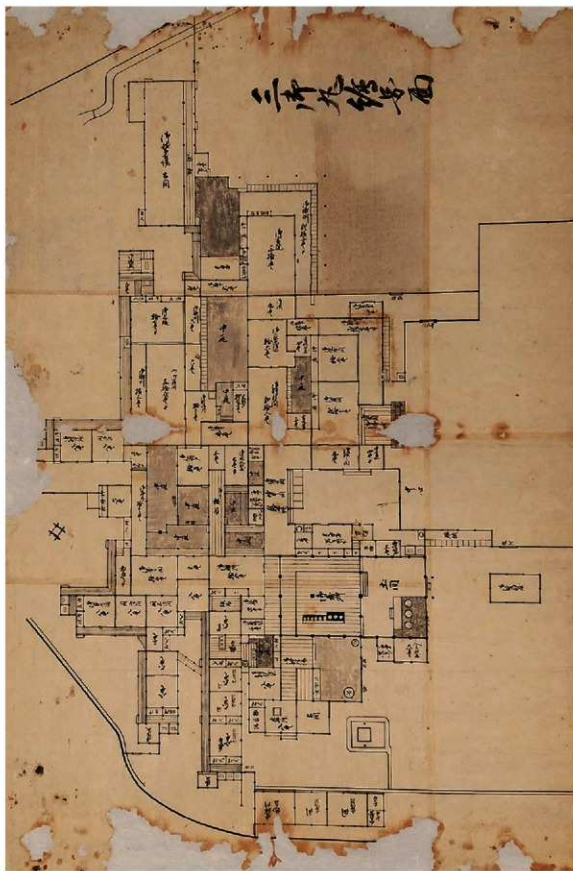


絵図8 明和7年(1770)豊後国佐伯城破損之覚(個人蔵)





繪圖9 天保5年(1834) 御城内御繪図惣間取之図 (個人蔵)  
小野英治氏画像提供

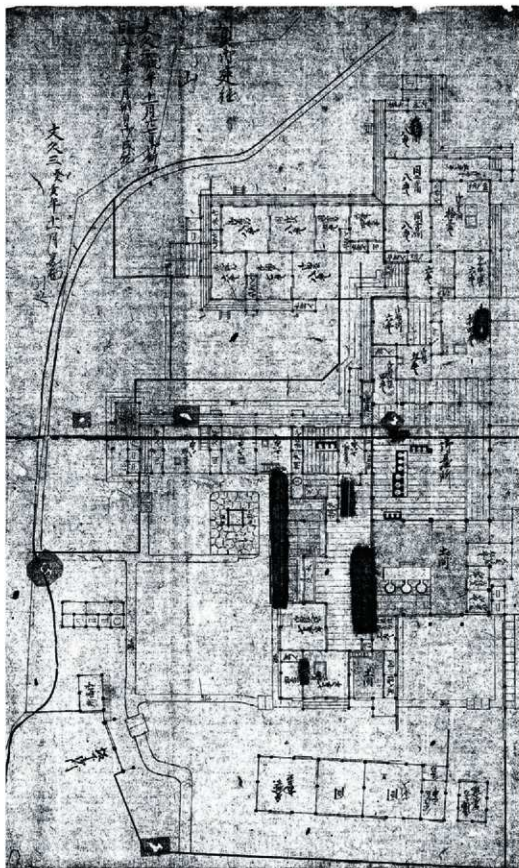


絵図10 天保5年(1834)か 三御丸繪図面 (個人蔵)

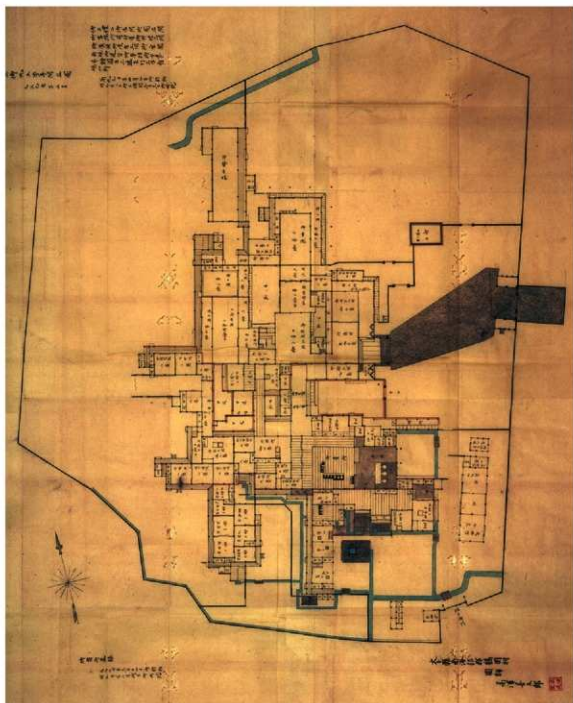


繪圖11 嘉永2年（1849）尾野上御茶屋之尾崎平地繪圖（個人藏）

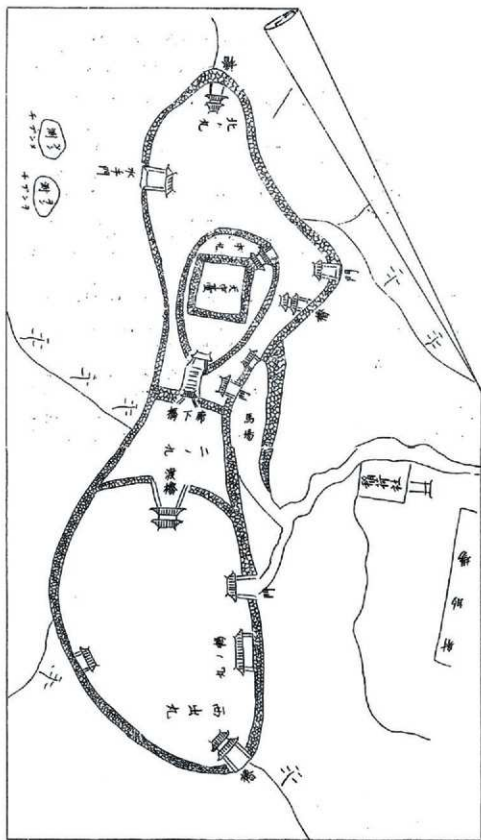




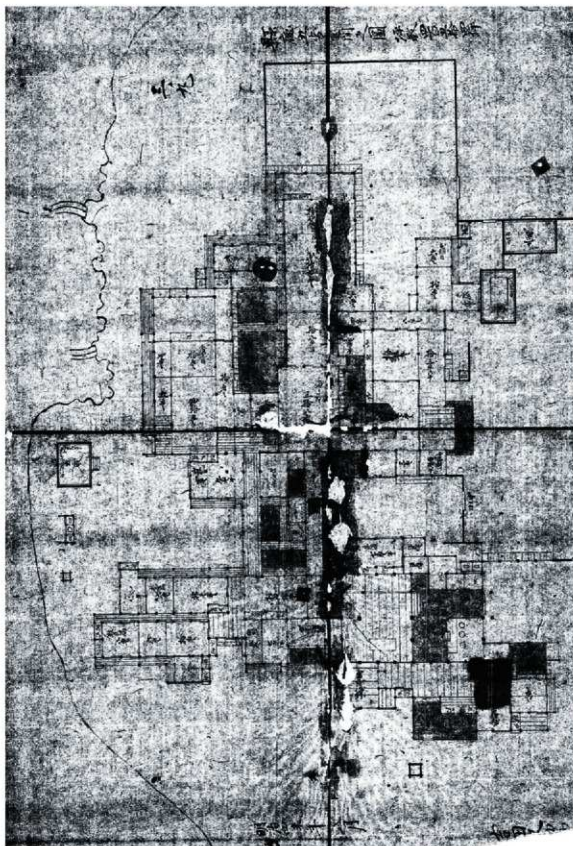
絵図13 文久3年(1863) 御奥御建繼 (個人蔵) 小野英治氏画像提供



繪圖14 明治初期 三御丸五步沓間之圖 (個人藏)



絵図15 明治初期か 佐伯城下地図(部分) (個人蔵)  
 小野英治1973「佐伯城絵図解説五」『佐伯史談』90号より転載

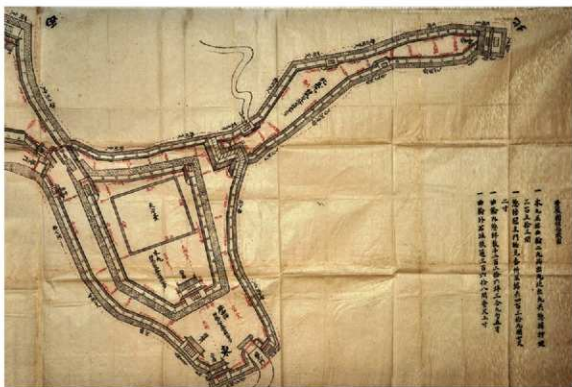
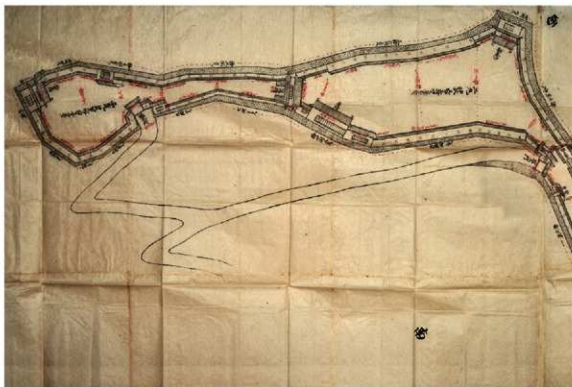


絵図16 明治4年(1871) 県庁五步堂間之図 (個人蔵) 小野英治氏画像提供

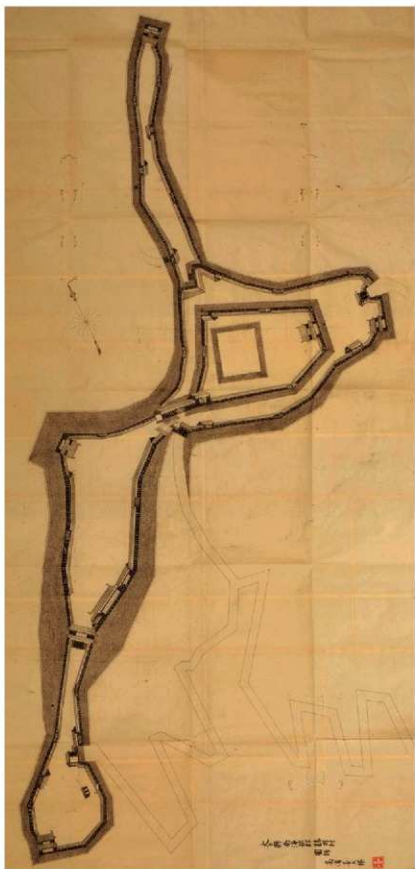




絵図17 明治初期 豊後国佐伯城図（富原文庫蔵）（1）



絵図17 明治初期 豊後国佐伯城図（富原文庫蔵）（2）



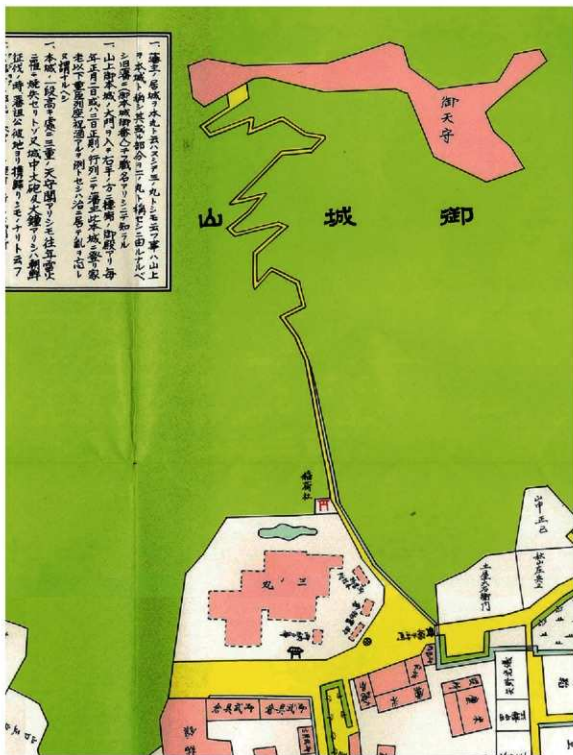
絵図18 明治初期か 御山城之図（個人蔵）



繪圖19 明治初期の 鶴谷城之図 (佐伯市歴史資料館蔵) (1)



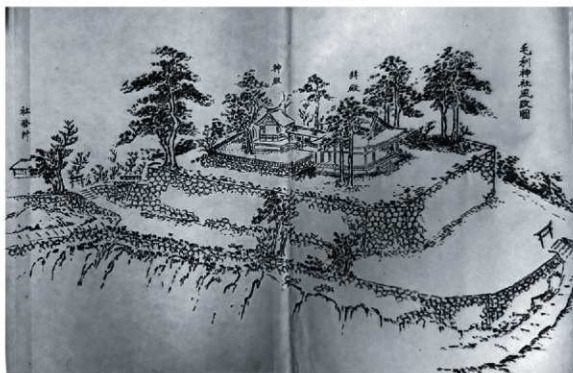
絵図19 明治初期か 鶴谷城之図 (佐伯市歴史資料館蔵) (2)



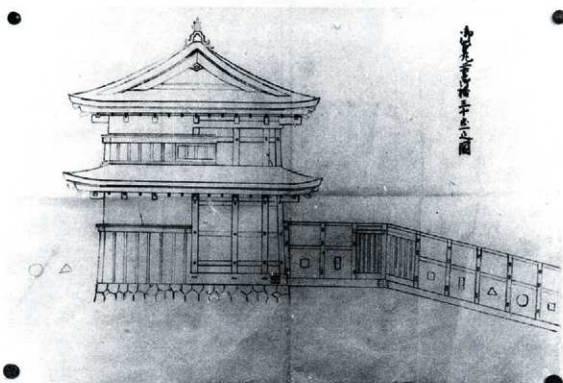
絵図20 大正4年(1915) 佐伯藩時代屋敷図(部分) (佐伯市歴史資料館蔵)



絵図21 昭和2年（1927）毛利神社風地図（佐伯市教育委員会蔵）

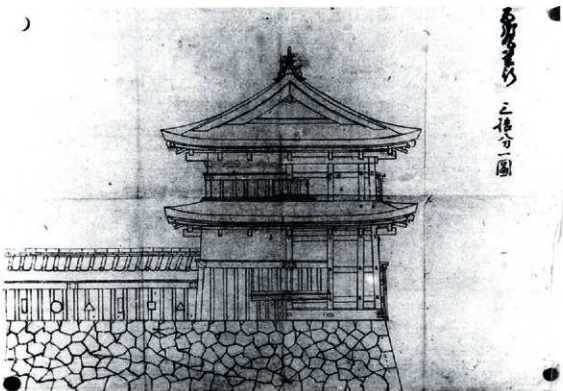


絵図22 昭和8年（1933）毛利神社風致図（佐伯市教育委員会蔵）



御本丸二重御櫓三十歩一之圖

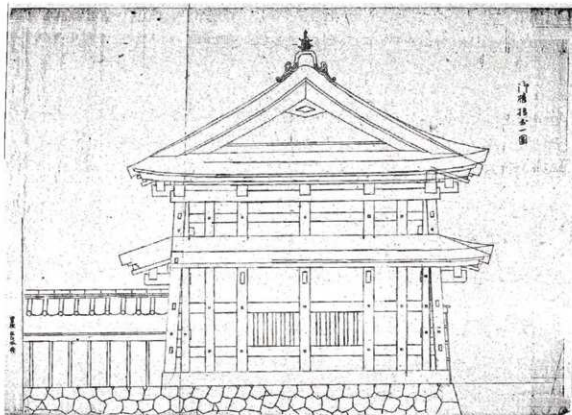
繪圖23 年代不明 御本丸二重御櫓三十歩一之圖 (個人蔵)



西御丸梁行三拾分一圖

繪圖24 年代不明 西御丸梁行三拾分一圖 (個人蔵)





絵図25 年代不明 御櫓拾歩一図（個人蔵）小野英治氏トレース図提供



# 古 写 真

## 佐伯城跡関連古写真一覧（1）

番号	タイトル・内容 備 考	撮影年		所蔵
		和暦	西暦	
古写真1	三の丸と城山 ・大手門付近から城山を写す。 ・三の丸櫓門と、その背後に三の丸御殿の玄関と書院の屋根が見える。	明治40年代		佐伯市教育委員会
	三の丸櫓門 ・古写真1と同様、三の丸櫓門と背後の三の丸御殿玄関と書院の屋根が写る。 ・櫓門左の石垣には、平櫓台とみられる一段高い部分がある。これは現在の石垣No.602でも観察できる。	明治40年代		佐伯市教育委員会
古写真3	三の丸御殿 ・三の丸御殿の玄関と広間・使者之間・料理之間・二居間・書院などが残っている。 ・御殿の奥向きや櫓古場は解体されており、写真奥には明治33年(1900)建築の佐伯尋常小学校舎がある。	明治40年代		佐伯市教育委員会
	三の丸御殿（書院・左側は玄関部分） ・三の丸御殿の書院を写す。左側には、玄関部分の側面が写る。	明治40年代		佐伯市教育委員会
古写真5	三の丸での祝賀会 ・右奥に、三の丸北側を囲む石垣と白壁が写る。現在も残る石垣No.612か。	大正5年頃か		佐伯市教育委員会
	三の丸御殿（書院） ・戸が障子戸から舞良戸に変わっている。 ・右端には、国から城山の払い下げを受けたことを記念して明治44年（1911）に建立された、「城山還原之碑」が写る。	大正～昭和初期		佐伯市教育委員会
古写真7	毛利神社と階段 ・昭和4年（1929）に本丸に創建された毛利神社を写す。神社は昭和20年の空襲で大破したため、この間の撮影。 ・階段は神社創建後に追加されたもの。階段の上に移る建築物は、毛利神社の拝殿。	昭和4年～20年	1929～1945	佐伯市教育委員会
	毛利神社 ・天守台石垣の上に建てられた毛利神社神殿（左）と、天守台の前に建てられた拝殿（右）。 ・神殿が置かれた石垣は、現在の石垣No.003にあたる。石積みには変化は見られない。	昭和4年～20年	1929～1945	佐伯市教育委員会
古写真9	三の丸御殿 ・三の丸御殿は書院などが解体され、玄関と広間・使者之間部分のみが残る。 ・戸がガラス戸に変わっている。	昭和44年	1969	佐伯市教育委員会
	櫓門から見た三の丸御殿 ・櫓門の下から三の丸御殿の玄関を写す。 ・御殿の玄関までは、石畳のスロープとなっている。	昭和44年	1969	佐伯市教育委員会

## 佐伯城跡関連古写真一覧（2）

番号	タイトル・内容 備 考	撮影年		所蔵
		和暦	西暦	
古写真11	三の丸庭園の池	昭和40年代か		佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三の丸御殿の背面にあたる、北西側斜面を利用した庭園の池。</li> <li>・写真手前には庭園の園路である石敷きがある。</li> </ul>			
古写真12	三の丸庭園の池	昭和44年	1969	佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春祭りでにぎわう三の丸。</li> <li>・池の水は、昭和46年（1971）の佐伯文化会館建設後には写真程の水量は無くなった。</li> </ul>			
古写真13	三の丸櫓門	昭和44年	1969	佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三の丸御殿の玄関付近から櫓門を写す。</li> <li>・櫓門から三の丸へは2m程の高低差があり、スロープ状の石畳となっている。</li> </ul>			
古写真14	離池	昭和40年代か		佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離池の護岸石垣を写す。</li> <li>・令和元年度（2019）に実施した、離池の石垣復旧時に参考とした写真の一つ。</li> </ul>			
古写真15	三の丸御殿の内部	昭和45年	1970	小野英治氏画像提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広間から使者之間方向を写す。</li> </ul>			
古写真16	三の丸御殿の内部	昭和45年	1970	小野英治氏画像提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植之間から玄関方向を写す。</li> <li>・玄関の先には三の丸櫓門が写る。</li> </ul>			
古写真17	三の丸御殿の解体状況	昭和45年	1970	小野英治氏画像提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯文化会館建設のため、三の丸御殿を解体する時のもの。</li> </ul>			
古写真18	三の丸御殿の解体状況	昭和45年	1970	小野英治氏画像提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真左側の壁の切り欠き部は、料理之間へと続いていた廊下との接続部。</li> </ul>			
古写真19	三の丸御殿の解体状況	昭和45年	1970	小野英治氏画像提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解体された部材は市内船頭町に運ばれ、集会所として利用されている。通称「住吉御殿」。</li> <li>・手前に写る「城山還原之碑」は、佐伯文化会館建設時に、三の丸の北西へ移設されて現在に至る。</li> </ul>			
古写真20	三の丸櫓門の屋根修理状況	昭和50年	1975	佐伯市教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劣化が進んでいた、三の丸櫓門の屋根の修理を行った時のもの。</li> <li>・屋根の垂木・野地板の交換が行われた。</li> </ul>			



写真1 明治40年代 三の丸と城山



写真2 明治40年代 三の丸櫓門

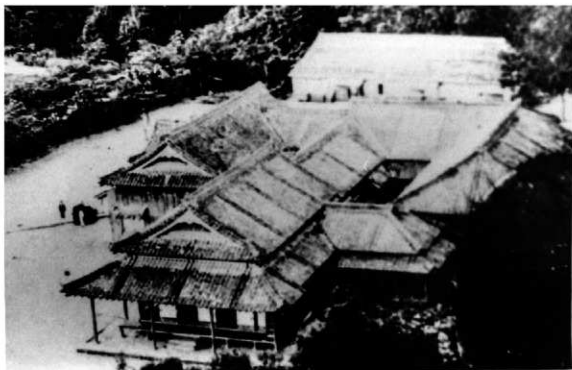


写真3 明治40年代 三の丸御殿



写真4 明治40年代 三の丸御殿（書院・左側は玄関部分）



写真5 大正5年頃か 三の丸での祝賀会



写真6 大正～昭和初期 三の丸御殿（書院）





写真7 昭和4～20年 毛利神社と階段



写真8 昭和4～20年 毛利神社



写真9 昭和44年 三の丸御殿



写真10 昭和44年 櫓門から見た三の丸御殿



写真11 昭和40年代か 三の丸庭園の池



写真12 昭和44年 三の丸庭園の池



写真13 昭和44年 三の丸櫓門



写真14 昭和40年代か 鯉池



写真15 昭和45年 三の丸御殿の内部 小野英治氏画像提供



写真16 昭和45年 三の丸御殿の内部 小野英治氏画像提供



写真17 昭和45年 三の丸御殿の解体状況 小野英治氏画像提供



写真18 昭和45年 三の丸御殿の解体状況 小野英治氏画像提供



写真19 昭和45年 三の丸御殿の解体状況 小野英治氏画像提供



写真20 昭和50年 三の丸櫓門の屋根修理状況





文 獻 史 料  
記 事 一 覽

# 文献史料記事一覧(1)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
1	元和6年	1620	3月20日	天守の各段(下段、同下段、二ノ段、三ノ段、四段、五段、上段)に納められている道具の一覧について。	佐伯藩政史料	天守道具御改帳	S-130
2	延宝5年	1677	7月朔日	去年、大嵐で倒れた城山の木を売却しようとしたところ、手形をなくしたので、手形を作り直すよう指定方の久左衛門に申し付けた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-1
3	延宝4年	1676	12月22日	佐伯御用大元として、大坂で平瓦700枚・丸瓦300枚、合計1,000枚が船の上に積み上げられた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-1
4	延宝5年	1677	11月25日	城山の木材ほか大木の立て直しのため、周囲の雑木を伐採し、売り渡すよう指示した。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-3
5	延宝7年	1679	10月21日	城山で材木をとった後の株や雑木について。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-3
6	延宝7年	1679	11月11日	城の周囲にカヤ屋根を葺く奉行を小強の若右衛門に申し付けた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-3
7	天和元年	1681	8月11日	城山にある藁にて、入札した上で相成り旨を鞆御所の高札に建てた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-4
8	元禄2年	1680	3月19日	城山の下草刈をした際の伐採木の入札は、足輕の五助に持ち参ること。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-5
9	元禄7年	1694	11月2日	中町の半兵衛らが山城で前の伐採を行い、山廻りが見届けた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-7
10	元禄14年	1701	9月9日	城天守除障人は奉公人・小人廻らが日20人づつ5日間勤務し、御目付高瀬善太夫と依久間儀右衛門の指図を受けること。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-8
11	元禄14年	1701	10月6日	城山の木を伐って運らす者がいるので、山廻り4人申し付けたところ、早速捕まえた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-8
12	元禄14年	1701	12月6日	町人や百姓が城山でシダをとることが多いので、これを禁じるため、臼坪山の2か所から取ってよい。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-8
13	元禄16年	1703	9月2日	山城の番所に勤める足輕は昼夜番をすること。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-9
14	元禄16年	1703	9月19日	城の御殿の土間番人・御殿の門番人・大石門の番人は今までどおり番を着用するよう、他の番人は着用を免じると申し渡した。	足故知新録	元禄・宝永・正徳 享保日記	『足故』 p23
15	宝永元年	1704	11月3日	今晚は去違なので、めでたい先例のおお書院において給人・中小廻までに(藩士)手すから番をたごさつた。	足故知新録	元禄・宝永・正徳 享保日記	『足故』 p25
16	宝永元年	1704	12月	広間番・次の間の勤めを交代で勤める者たちへ、夜食などやむを得ない用事が済み次第出勤するよう申し渡した。	足故知新録	元禄・宝永・正徳 享保日記	『足故』 p30
17	宝永2年	1705	4月4日	天守台の掃除「鹿刈」について、佐藤地兵衛が言及は、作業員は日20人づつで、6日から作事方の下川孫作と申し合わせた上で勤めること。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-13
18	宝永2年	1705	4月8日	城のいば(射場か)2か所の修理開始について。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-13
19	宝永2年	1705	5月5日	山城から黒門までの掃除が完了したと、谷右衛門から聞いた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-14
20	宝永2年	1705	5月15日	城の玄関に貼っている足輕以外は、今後袴は必要ない。	足故知新録	元禄・宝永・正徳 享保日記	『足故』 p38
21	宝永2年	1705	6月19日	城の上で雷が鳴った時は、家中の者たちむね職利用に警備すること、大雷の時は方角関係なく警備、地震の際は家老が警備した上で用人たちに知らせる。	足故知新録	元禄・宝永・正徳 享保日記	『足故』 p39
22	宝永2年	1705	11月3日	昨夜、黒門城で猪の子供が大に食い殺されたので、今朝日付らが見分の上で、入念に埋葬する旨と上左衛門に申し渡した。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-15
23	宝永2年	1705	12月15日	昨夜0時ごろ本町から出火し、内町は焼らず焼失した。家数にして28軒、酒火に当たった者や焼失した者全員に御食を与えた。	足故知新録	高瀬公御手日記 享保日記	『足故』 p263
24	宝永2年	1705	12月15日	今夜0時過ぎに本町の医師小沢自悦宅から出火し、朝5時過ぎまでに内町が焼失した。家数28軒焼失。けが人はいない。なお自火に間違いない。	足故知新録	元禄・宝永・正徳 享保日記	『足故』 p43
25	宝永3年	1706	正月1日	昼間て居居の者たちや給人の働きたちの挨拶を受け、西名・豊原・斉藤の3人へ盃を遣わした。	足故知新録	高瀬公御手日記 享保日記	『足故』 p275

## 文献史料記事一覧(2)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
26	室永3年	1706	正月	居間で藤原の知神玄隆へ書を遣わした。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p274
27	室永3年	1706	2月28日	書院で丹羽吉長衛門に初めて日通の申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p279
28	室永3年	1706	9月16日	天守までの道筋を解除するよう、破損方の伝左衛門へ伝えた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-17
29	室永4年	1707	4月3日	現在の城は壊れて解・崩もないので、修復したいと戸田能登守に申したところ、奉書を取っておけば普請は後になっても良いとのこと。	温故知新録	高麗公御手日記写(江府)	『温故』六 p173
30	室永4年	1707	4月4日	城の修復には、昔のとおり天守・櫓・櫓を記入した絵図面を用意して頼み出れば良いと秋元彦加(用人の)加古八左衛門が申した。	温故知新録	高麗公御手日記写(江府)	『温故』六 p174
31	室永4年	1707	4月5日	櫓・櫓だけでは奉書には及ばないが、石垣・土塀などもあれば、それは奉書を出すことになるよ、加古八左衛門の助言。	温故知新録	高麗公御手日記写(江府)	『温故』六 p174
32	室永4年	1707	5月1日	山城の周囲の堀除を一日の4月28日に申し付けた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
33	室永4年	1707	5月13日	天守台の崩除は、小さな木は伐採し、石垣が隠れている所が増えているので大体の地形を出すこと。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
34	室永4年	1707	5月14日	山城の芝刈をした奉行の斎藤勘左衛門に伐採の代金を支給した。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
35	室永4年	1707	5月19日	以前のように城を修復することは、月番老中へ頼む必要もなく、秋元へ伝えるだけでよいと加古八左衛門が申した。	温故知新録	高麗公御手日記写(江府)	『温故』六 p176
36	室永4年	1707	5月20日	秋元頼馬守から、居城の修復は自由である旨を沙汰され、かたじけなく思っている。念のため城内からの搬入を差し上げる。	温故知新録	高麗公御手日記写(江府)	『温故』六 p176
37	室永4年	1707	6月4日	天守台やそのほかの構台の間敷を出しように、幕府目付の大崎半蔵から仰せ付けられた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
38	室永4年	1707	6月4日	木藤民兵衛が、天守台の石垣間敷を調べたので、用人・郡代に申し伝えた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
39	室永4年	1707	6月21日	城絵図を江戸へ差出した。絵図は江戸で戸田(能登守)、秋元(頼馬守)に差し出される。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
40	室永4年	1707	6月22日	城絵図が完成したので、戸田能登守と秋元頼馬守にお見送するため、岩本、源三郎、親川が登城し、そのま奉書を受け取った。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
41	室永4年	1707	6月23日	城の破損について、櫓は徐々に、櫓や門は近年のうちに修復することを郡代が申した。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-19
42	室永4年	1707	6月24日	先祖が築いた城が大いに他人で作り、幕府へ修復を頼み出ることになる。我が代に改善するのは大変な事なので、来年には完成させたいと皆が申していることは密にしていることである。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p297
43	室永4年	1707	10月4日	12時半頃、非常に強い地震があり、地震がやむと高瀬が押し寄せてきた。家中・町人には、城内でも遠慮なく、山にも登るよう申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p312
44	室永4年	1707	10月31日	地震による被害状況を家老たちが提出した。城内はほとんど破損はないが、武家屋敷・寺・両町はかなりの破損した。そのほか船場の被害状況。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p314
45	室永4年	1707	11月3日	普請場所で、古賀半左衛門を含む7名の奉行たちを呼び、いよいよ期を出して仕上げようとのこと、高瀬伝えた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p320
46	室永6年	1709	6月27日	秋元頼馬守への使者・遠城寺源兵衛に申し、佐伯城普請の件を許可されたので、奉書を加古八左衛門からお渡しになった。	温故知新録	元録・定本・正徳・享保日記	『温故』八 p255
47	室永6年	1709	7月13日	5月25日に絵図にして頼み出した本丸・二の丸・出丸・曲輪などの普請許可の件を、老中秋元頼馬守が遠城寺源兵衛を呼び渡された。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p360
48	室永6年	1709	7月19日	城普請の船も済んだ祝いとして、赤飯と喰い物で祝い、家老と医師が相拝した。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p363
49	室永6年	1709	7月21日	本丸普請では、高政公が建てた礎の要について何事も詳しく調査し、藩実事柄を文書にして差し出すようにさせた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p365
50	室永6年	1709	7月21日	石垣の積置は、全体の石垣を見て解の高さなどは元のようにせよ、戸倉外記の承知していることのほか、軍学者や人々の意見を書付して提出させた、その3/4で申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p366

# 文献史料記事一覧(3)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
51	寛永6年	1709	7月21日	全ての普請の事は決まり、進捗だけを考えて軽率に意見を提出してはならない。進が言ったことでも、よく調べて自分に報告し、支障にならないようにせよ。今回は特別の普請なので後程見ないで済む。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p366
52	寛永6年	1709	7月21日	山上へ用事があって持参した火などは、おろそかにせず、火の元は念入りにせよと投入した。申渡す次第に外記へ申し付けた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p367
53	寛永6年	1709	7月21日	戸倉外記をはじめ役人たちは、大工などを連れて城へ上り、本丸の間敷を調査した。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p367
54	寛永6年	1709	7月22日	今回の城普請は願ひの通り認められたので、次々に申し付ける。在達の者へ酒を与えたのは、作業員として酒を出すようにとのことを、会所へ庄屋らを集めて申し渡した。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p367
55	寛永6年	1709	7月22日	役人たちが登城し、間敷などを調査した。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p367
56	寛永6年	1709	7月22日	今日、10時過ぎに城山へ自分のため登山をした。本丸より南東の方向からすべて一瞥した。12時ごろ帰った。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p368
57	寛永6年	1709	7月23日	午後6時ごろ城山に登り、見分した。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p368
58	寛永6年	1709	7月26日	城の修理工事の年末年始の休日及び2月中旬の完成について。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p368
59	寛永6年	1709	8月2日	午前8時頃、本丸外倉庫内にある大工小屋で総奉行以下が麻痺で手汗初めを被り行った。手汗初めの呪いとして赤飯を下された。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p369
60	寛永6年	1709	8月3日	本下主水が江戸で死去したが、城普請のことは特別なことであるので、今日のみ休止し、明日からすべて別の普請を申し付けた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p370
61	寛永6年	1709	8月4日	本丸を囲むすべての櫓が仕舞いになれば、風雨が吹くにつれて、また西の出丸下段に間半×20間の小屋を掛けさせた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p371
62	寛永6年	1709	8月13日	西の出丸のふもとに八幡宮を建立することを外記へ申し付けた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p372
63	寛永6年	1709	8月14日	城普請で節内の大工たちを使役しているため、町などは普請に困っていることので、他節の大工の起用を願ひ出したので許した。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p372
64	寛永6年	1709	8月18日	筋人たちが小柄たちで城山を一瞥したい者たちは、当番であっても交代して、今日登るよと申し渡した。翌日より明日。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p372
65	寛永6年	1709	9月3日	10時ごろ、城山へ登り、櫓と矢張り間を見分した。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p374
66	寛永6年	1709	9月8日	先月18日に城普請許可の奉書への請書の提出が済んだ。これにより祝いをした。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p376
67	寛永6年	1709	9月8日	城普請の地鎮祭に2夜3日の祈禱をするように、江戸の蔵兵衛に申し付けた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p377
68	寛永6年	1709	9月9日	来る16日の8時ごろから10時ごろまで、名代の戸倉外記以下が出席して城山の地鎮祭を行うように申し付けた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p377
69	寛永6年	1709	9月9日	城の地鎮祭は、江戸で蔵兵衛に申し付けた日の祈禱した品々の納物が送られてきたため、来る16日とする。16日は高政の命日なので、高政の時に用いた餅・酒・御を今回も用いる。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p378
70	寛永6年	1709	9月16日	今朝8時頃、山上の本丸において天気もよく、地鎮祭を首尾よく済ませた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p379
71	寛永6年	1709	10月3日	秋元商知の用人・加古八左衛門が伝えた。佐伯城の普請が暇の許可され、屏の工事に就いたことには結構なことである。そのお礼のため江戸屋敷に参上したので料理を下された。	監故知新録	元鑑・宛本・正徳・享保日記	『監故』八 p251
72	寛永6年	1709	10月3日	普請の所奉行・長谷川園右衛門が先日北出丸の松を伐らせたところ、松が割れて櫓が壊れた。外記は聞いていたのに気がしなかった。自分は噂話として知った。園右衛門は土産を申し付け、更迭する。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p381
73	寛永6年	1709	10月26日	今日、城山へ登って見分をした。皆精を出しているので、文書係や奉行が元締めを呼び、作業員たちを調査してただかせるように申し付けた。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p383
74	寛永6年	1709	11月6日	城の全ての櫓の機軸と白土塼の全部、櫓台と石垣の口々の戸は分は終わったので、今年の作業は終わりにせよ。年明けに櫓下櫓と北出丸に取掛かる。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p388
75	寛永6年	1709	11月20日	城普請は、今年は御までを全て仕上げようとして申し付けておいたところ、今日出来上がった。大工や作業員などを雇った。番人らは15日朝を念入りにせよ。	監故知新録	高麗公御手日記(依傍)	『監故』三 p389

文献史料記事一覧(4)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁史料番号
76	室永6年	1709	11月21日	城の普請の初期の工事が完成した。11月23日に祝いをする。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p389
77	室永6年	1709	11月22日	8時過ぎに城山へ登り、城山の堀がすべて完成したので見分をした。本丸・天守台に着席して、外記以下一宴を遣われた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p389
78	室永6年	1709	11月23日	このたび、最初の城普請を申し付けたところ、全ての堀が恰好よ出来たが甲、ひととおめでたいことだ。外記以下に褒美を与えた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p390
79	室永6年	1709	11月23日	祝いでと赤飯と饗物で行い、家老3人に相伴を申し付け、家臣にも饗物と酒を与えた。居間で囃子を演じさせた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p391
80	室永6年	1709	11月23日	外記を初め役人たちは全員、普請中は苦勞であったため、来月14日まで休息を申し付けた。出勤は15日から申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p391
81	室永6年	1709	11月23日	家中の山廻りの屋敷の分は、城山のすその周廻りや山廻り土を取らせることは、今後しないようにせよ。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p391
82	室永6年	1709	12月15日	城の堀下橋・食い違いの堀は、来る正月11日から取り掛かり、2月中旬までにすべて出来上がるようにせよ。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p393
83	室永6年	1709	12月15日	城のすべての堀の外記は、来る3月に乗船した後に、すぐ取り掛かるよう申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p393
84	室永6年	1709	12月15日	冠木門か所(西の出丸16所、本丸外曲輪2か所)の分の普請を申し付けよ。これは益田金兵衛へ申し渡した。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p393
85	室永6年	1709	12月15日	普請部の者で外記と益田金兵衛は江戸へ供をするので、総奉行の金兵衛と六郎右衛門は一日交代で城山へつて命をせよ。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p393
86	室永6年	1709	12月15日	瓦を渡くことと冠木門の普請は、来る4月中旬までにすべて完了させ、15日間の休息を全員に申し付けた。できたことは、すぐに江戸へ報告せよ。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p393
87	室永7年	1710	正月28日	大工の長左衛門は細工の功者である。櫓などの造り方を習わせるため、当年江戸に召し連れ、来年帰国できるよう申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p401
88	室永7年	1710	2月24日	養賢寺にある釣鐘は、昔本丸にあったもので、大破した後に置きがなくなったため、養賢寺に運ばれた。普請が終われば元丸のようにならねばならぬ。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p403
89	室永7年	1710	6月7日	表と裏の錠こ番人の菅四郎右衛門は不埒なことがあり、押込みの刑を申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記写(依伯)	『温故』三 p408
90	室永7年	1710	8月12日	佐伯城下の侍屋敷・町屋その外郭の作成一つ、この間即せ付けられ、今日出来上がった。惣廻りは城の模型に添えて、江戸の下屋敷へ運んでおむろに即せ付けられた。	温故知新録	室永七年江戸日記抜書	『温故』三 p32
91	室永7年	1710	8月13日	直目の模型・総廻り面共に、今日下屋敷へ運ばれた。	温故知新録	室永七年江戸日記抜書	『温故』三 p32
92	室永7年	1710	8月19日	佐伯城本丸と二の丸を連結する堀下橋はか所を撤けること並びに冠木門4か所を建てたことを、老中秋元商加に届ける。	温故知新録	高麗公御手日記写(江戸)	『温故』三 p100
93	室永8年	1711	正月31日	藩主不在であるが、今年はご隠居様(5代高久)がいるので、佐伯の両町と村浦の庄屋たちからの年頭の挨拶を広間で申し上げた。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p92
94	室永8年	1711	2月13日	ご隠居様の居所の普請は今日が種上げなので、奉行入・小強彦・足軽・大工・木挽の合わせて30人に祝いを下された。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p94
95	室永8年	1711	4月19日	ご隠居様の居所の普請ができたので、移居(しん・転居)の祝いの新どろを今日大目寺が登城して振舞う。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p95
96	正徳元年	1711	5月27日	時の太鼓を止め、山上の鐘樓に鐘を上げて鐘かきよと考えたが、人が4人ほどいるため、見合わせることを命じられた。今までは熊門の番人が叩いている。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p99
97	正徳元年	1711	6月20日	堀が引掛けになると、堀城が夜になれば、冠木門と熊門へ台提灯を出すようにしてきたが、目立つたやめのこととした。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p100
98	正徳元年	1711	6月22日	兵法場の普請を命じられたので、奉行を下川伏次衛永へ申し付けたことを、左衛門が申し伝えた。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p100
99	正徳元年	1711	7月12日	外記が家督の挨拶を申し上げるので、堀は居間へ着席した。終わってから外記は次の間へ退出した。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p108
100	正徳元年	1711	8月14日	小林九左衛門・岡右衛門・黒木新五衛門に堀の堀を下された。会所で左衛門から4人の立ち回りについて申し渡した。	温故知新録	元禄・室永・正徳・享保日記	『温故』八 p112

# 文献史料記事一覧 (5)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
101	正徳元年	1711	11月6日	家中の者に城山へ登りたいとの意向があれば、意向次第にせよ。当分は城の書院を生活の場とし、その間は座敷の内を屏風で囲う。	温故知新録	高麗公御手日記(江戸)	『温故』三 p173
102	正徳2年	1712	正月21日	広間で隠居貫用式通りの挨拶を受けたが、多けないので既いの限りを厳が自ら渡した。外に2人の隠居の挨拶を受けた。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p435
103	正徳2年	1712	正月21日	書院へ出て、城内の各人の参入や中小姓・徒士の者たちの挨拶を受けた。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p435
104	正徳2年	1712	正月28日	本丸・二の丸・西北の丸・居所、その他の櫓・所・土蔵口かなどの絵図と費用の概要がすべて出来て、一覧した。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p437
105	正徳3年	1713	2月29日	三の丸石垣修葺の願書を今日、幕府へ提出した。	温故知新録	高麗公御手日記(江戸)	『温故』三 p212
106	正徳3年	1713	3月15日	先月29日に三の丸石垣を築き直すことを伏元頼馬守へ願い出ていたところ、許可され、老中連名の奉書が渡された。	温故知新録	高麗公御手日記(江戸)	『温故』三 p212
107	正徳3年	1713	3月27日	三の丸の石垣は、御井の堀から里門の間の2段ほどに準備が出ている。先月29日に伏元頼馬守へ修葺を願い出した。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p135
108	正徳3年	1713	5月18日	来る20日、熊門下で給人で奉公に出ていない息子たちまでの、弓を射る勝負を一覧するし申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p447
109	正徳3年	1713	5月27日	三の丸の争んだ石垣の築き直し工事に取掛かるよう申し付けた。奉行は坂本瀬兵衛に申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p447
110	正徳3年	1713	5月28日	山上の曲輪のすべての櫓の裏側石垣の内側に栗石を一連の連ねて敷き並べさせるように、その方は固矢藤右衛門が了解している。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p142
111	正徳3年	1713	6月2日	三の丸の石垣の築き直しの普請を今日から開始するよう申し付けた。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p448
112	正徳3年	1713	7月2日	今日、本丸へ馬で登るよう申し付け、西出丸の門まで行かせた。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p449
113	正徳3年	1713	7月29日	山上の曲輪の普請を願い出て、櫓をすべて次々に築いていくわけだが、年数を掛けなければできない。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p145
114	正徳3年	1713	7月29日	櫓石は所々が崩れているだけに目立ち、無秩序に見えるので、まずは二の丸の二重櫓・平櫓と曲輪の堀・所だけを築く。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p145
115	正徳3年	1713	7月29日	その他の櫓にははねを掛けておいて、時機が来たときに築くようにするのが適当と考える。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p145
116	正徳3年	1713	7月29日	ほか所の櫓を築く費用は、先年の書付のとおりだと勘定人は考えているのか、費用の出所に心当たりのないのか書き付けを提出せよ。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p145
117	正徳3年	1713	7月29日	二の丸櫓・二の丸平櫓・渡り櫓を築くに必要な費用の見積りは合計銀1貫490匁で、これは金にして2両5匁2分。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p146
118	正徳3年	1713	8月11日	三の丸の東面の間の争んだ石垣は所は、当春に願い出たとおりに築き直すよう申し付け、全てが出来上がった。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p451
119	正徳3年	1713	8月17日	奉行の坂本から三の丸の石垣の築き直しは6月2日から昨日8月16日までに済ませて出来上がったとの報告があった。普請に掛った者へ料金を下された。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』三 p452
120	享保元年	1716	11月7日	山城にある黒旗の將を、本立村で230の距離で5発打たれ、因矢らが見分した。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p205
121	享保元年	1716	12月29日	歳暮の挨拶に家中の者たちが登城し、居間に於いて家老たちが御礼を申し上げた。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p204
122	享保2年	1717	6月16日	昨夜12時頃、彰徳門で出火し、今朝6時頃最火した。彰徳門は5-6軒を残して全て焼失したが、城内や武家屋敷・内町には被害はなかった。	温故知新録	高麗公御手日記(依伯)	『温故』四 p200
123	享保2年	1717	7月15日	城内の時計は今まで1つだったが時鐘の間違いが起るから、もう一つ申し付けるように沙汰されたため、大坂表へ申し送られた。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p199
124	享保2年	1717	10月5日	朱印状の写の頂戴が済み、次の間で取次以上と医師・料理を、他の者へは広間、身分の低い者や通に任む者もは公所で酒などを下された。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p202
125	享保3年	1718	正月11日	広間で小役人たち一同の挨拶をお受けになった。それから書院で御洗れを日見格以上の者へ下された。	温故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p205

文献史料記事一覧(6)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
126	享保3年	1718	正月11日	今日は講義初めなので、居間において明石左衛門が鬨斗弓の袴を着用して「大学の講義を行った。	温故知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p205
127	享保4年	1719	5月16日	普賢(高通)が病気のため、弟の九八郎(高徳)を輔子にすることが認められたことを、因元の公所において故人へは高徳様長衛から申し渡した。	温故知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p215
128	享保4年	1719	5月26日	役人たちの会席での態度がよろしくないので、以前の決まりどおりに今後は対応することを申し渡した。	温故知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p216
129	享保4年	1719	11月9日	小林平太夫が、今まで日付は城の前番を1日交替で勤めていたと申し伝えたが、1人のときは常に勤めらるに申し伝えた。	温故知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p221
130	享保4年	1719	12月29日	歳暮の祝儀は居間において用人以下が出て、祝儀を申し上げた。殿様が書院の次の間に出席し、祝儀を申し上げた。	温故知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『温故』八 p226
131	享保6年	1721	6月28日	因元より山城石垣普請の報告。6月11日より着手。普請奉行は間作平と存用源左衛門。6月7日に祈符をし、事始めを行った。	温故知新録	高慶公御手日記(江戸)	『温故』四 p141
132	享保6年	1721	7月10日	両町の心得のある者7人に山城の御殿の屋根修繕を申し付けた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-7
133	享保6年	1721	10月4日	城石垣修繕の件を頼み出るので、江戸で老中戸田山城守に内々に見てもらい、冠木門を大下。城門を揃すと書き換えるように指示。	温故知新録	高慶公御手日記(依船)	『温故』四 p177
134	享保6年	1721	10月10日	城石垣修繕御書の提出は、先月13日に月番老中井上河内守へ提出して受理された。	温故知新録	高慶公御手日記(依船)	『温故』四 p177
135	享保7年	1722	6月6日	本丸・二の丸の石垣修繕のための祈符を本丸で行った。6月11日より着手。また、その出席者は西名兵右衛門。修費奉行は間・存用。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-8
136	享保7年	1722	7月23日	9日から雨が続き、10日4時過ぎまで大洪水となった。10日未明から舟で城下の見分に出たところ、藩前に巻き込まれて家臣3名が死亡した。	温故知新録	高慶公御手日記(江戸)	『温故』四 p146
137	享保7年	1722	8月7日	摂津守様(高通)の御殿普請のための上取の作業員について。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-8
138	享保7年	1722	8月20日	城の石垣修繕は、去る4日限りで出来上がり、終了した。	温故知新録	高慶公御手日記(江戸)	『温故』四 p154
139	享保7年	1722	9月22日	城の石垣普請が完了したので、間・存用ら関係者に褒美を下させた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-8
140	享保7年	1722	9月26日	先般、摂津守様の御殿普請のために両町から借りた変換170俵のうち60俵を両町へ返却した。残る60俵は内町、船頭町に40俵ずつ返却する予定。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-8
141	享保7年	1722	10月6日	摂津守様の御殿普請の芳初めの儀式は、普請奉行中村与一兵衛、足軽小頭野村勇左衛門、足軽3名が行う。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-8
142	享保7年	1722	10月21日	大手櫓門の普請は、先月28日の晩限りですべて出来上がり、格好な申し分ない。	温故知新録	高慶公御手日記(江戸)	『温故』四 p182
143	享保7年	1722	10月21日	大手櫓門の普請担当である小林九左衛門に、以前申し付けておいたように褒美を遣わした。	温故知新録	高慶公御手日記(江戸)	『温故』四 p183
144	享保8年	1723	5月12日	櫓門の下で家中の者の鉄道の的当て稽古の腕前を一覽した。	温故知新録	高慶公御手日記(依船)	『温故』四 p297
145	享保8年	1723	11月21日	今日、城山・臼坪山で猿狩り申し付け、2頭を打ち留めた。	温故知新録	高慶公御手日記(依船)	『温故』四 p307
146	享保9年	1724	正月11日	年始めの挨拶は取次以上にして、次に書院の次の間で使土の者たち一同の挨拶を受けた。	温故知新録	高慶公御手日記(依船)	『温故』四 p313
147	享保9年	1724	正月11日	御表において、家老以下から年始めの挨拶を申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
148	享保9年	1724	正月4日	年始めの挨拶のため城下の5か寺が登城。書院で兼賢寺へ東一本の藏上に対してお礼を述べ、大日寺、蓮谷寺もお礼を述べた。善教寺は病気で登城しなかった。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
149	享保9年	1724	正月5日	泥谷寺の脇田右衛門が年始めのため登城し、扇子を差し上げたので書院でお礼を申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
150	享保9年	1724	正月6日	櫓門下で家中の打ち初め。両殿様も揃っておいでになった。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10

# 文献史料記事一覧(7)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
151	享保9年	1724	正月12日	表向きの間で、藩主・摂津守・御家と一緒に祝いをした。	温故知新録	高慶公御千日記写(依伯)	『温故』四 p315
152	享保9年	1724	正月18日	冠木門・西門より奥18間道から女の出入りを禁ずる。理由があるならば城番の御用人に禀つた上で指図を受けること。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-5
153	享保9年	1724	3月22日	伊予国西条藩惣鳥から、播磨石工人が船で来たので、役人立会いのもと改めさせた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
154	享保9年	1724	4月6日	小林九左衛門が表の門の石垣の角石を見分するため浦方へ出た。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
155	享保9年	1724	4月11日	小林九左衛門が表の門の石垣の角石見分のため浦方へ出た。高妻加太夫と浦奉行理右衛門も同道した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
156	享保9年	1724	4月18日	小林九左衛門が聞いたところ、明日9時に角石にて船から大石を揚げる。急なことで作業員の手配が間に合わず、130人を出すよう両町と鬼屋村に申し付けた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
157	享保9年	1724	4月10日	昨日は大石を動かすための作業員について、年寄や家内頭まで残らず酒などを持参して世話を使った用人たちから聞いた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
158	享保9年	1724	4月12日	大手門の大石は、角石から冠木門(大手門)まで、両町に下野・久保・長瀬の者が加わって引き上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
159	享保9年	1724	4月15日	本日、江戸からの船が到着し、大手門は船いとのどり、門下の石垣や橋の建て替えが許可されたので、家中の者はみな登城して喜んだ。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
160	享保9年	1724	4月15日	大手門棟敷地に、先月23日に南向いしたところ、連名の奉書のお渡しがあり、受け取られたと申し送ってきた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依伯)	『温故』四 p341
161	享保9年	1724	4月17日	小林九左衛門に大手門普請の総奉行を申し付けた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依伯)	『温故』四 p342
162	享保9年	1724	4月17日	大手門を今日から片付けるので、在座庄屋、肝煎を呼び出し、会所でこの度の大石構門の普請の次第や趣旨を小林九左衛門から申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
163	享保9年	1724	4月17日	(大手門門の普請のため)蒲江・人津・東水津の下浦組は池の間にはから材木を伐り出すよう、会所で小林九左衛門から申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
164	享保9年	1724	4月17日	大手門普請のため、持ち籠を差し出すよう小林から両町年寄に申し付け、内町から16、船頭町から10に移す木、鬼屋村から1を集めて普請方へ渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
165	享保9年	1724	4月20日	下野村から九か村と津久見村庄屋、肝煎から、大手門普請のための材木切出しと田圃荒の優先順位について相談を穿、願いのとおり許可した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
166	享保9年	1724	4月21日	城の大手門が破損し、冠木門を構門として石垣を築き立てる件をこのたび聞いた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依伯)	『温故』四 p339
167	享保9年	1724	4月28日	城下の範圍は、東は瀬谷寺・大日寺あたりの堀まで、南は船頭町札馬まで、北は例形の眞賢寺前の木戸までとする。	温故知新録	高慶公御千日記写(依伯)	『温故』四 p344
168	享保9年	1724	5月2日	大手門普請は、今日す洋初めを申し付けた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依伯)	『温故』四 p344
169	享保9年	1724	5月3日	大手門の普請のため、両町に外儀の表を差し出すよう申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
170	享保9年	1724	5月12日	通千(大千)の普請に関わる作業員へ振る舞う希望の者は、両町内の場合には年寄から郡代へ町奉行に聞いたうえで、総奉行へ報告すること。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
171	享保9年	1724	5月14日	両町の年寄4人が、本日普請所へ送っている作業員へ酒を振る舞うについて、総奉行小林九左衛門に相談し、自由にしてよいと申し付けた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
172	享保9年	1724	5月20日	中町の古文字屋茂左衛門ほか4名が、普請所の作業員へ酒を振る舞いたいと言っていることを総奉行小林九左衛門に伝えたところ、許可された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
173	享保9年	1724	6月24日	大手門に用いる大きな木材は、中船口から引き揚げるので、今朝の両町からの作業員の手配が悪い次第差し出すよう申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
174	享保9年	1724	7月6日	明後日の8日に、普請をしている門の土台と礎(おき)を上げるため、両町から作業員60人ほど加勢するよう申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
175	享保9年	1724	7月9日	大手門門の柱立(初めて柱を立てる祝い)の儀式を行った。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10



文献史料記事一覧(8)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
176	享保9年	1724	7月11日	城村から瓦を取の寄せるため、両町から船を10艘差し出すよう申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
177	享保9年	1724	7月18日	大手門の普請に船を出したので、両町の年寄4人、在浦庄屋、肝煎、両町酒場に会所で表美を取のせた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
178	享保9年	1724	7月18日	大手櫓門の棟上げを祝った。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
179	享保9年	1724	7月22日	今月22日に大手門の普請所へ作業員10人を差し出すよう、両町へ申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
180	享保9年	1724	9月10日	大手普請のための白坪から土取をするので、両町から加勢の作業員30人程を2日間差し出すよう、両町へ申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
181	享保9年	1724	9月10日	鬼屋村、両町から大手門普請の作業員として出てきた者たちに、普請の状況や計画などは妻子、他領の者へ決して語ってはならぬ旨申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
182	享保9年	1724	9月21日	大手の普請のためのカキ灰について、両町御屋から、今はカキ灰がないので、使っておいたカキ灰・お灰を差し出したと申し出があった。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
183	享保9年	1724	9月26日	大手の普請所は近日中に片付けることを伝えたところ、奉行と大工たちへ酒を振る舞いたいと両町年寄と御屋が申すので、そのようにすべきと申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
184	享保9年	1724	10月2日	大手の普請が完了したので、城において総奉行小林九左衛門以下の関係者に表美を取のせた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
185	享保9年	1724	11月6日	大手櫓門が完了したので、今日福佐古藤守に祈神を仰せ付けられ、小林九左衛門と日付の高妻嘉太夫が櫓の棟で出席した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
186	享保9年	1724	11月6日	藩士が留守中に火事起きた際、西名兵右衛門・小林九左衛門両人のうち1人は大手櫓門前に詰め、郡代中根右衛門は火事の現場へ行くことなど、火事に対しての覚悟。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-5
187	享保9年	1724	11月6日	城下で火事起きた場合、山城へ登り目を吹いて合図を送ること、その動機を問答と次兵衛らに申し付けた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-5
188	享保10年	1725	正月21日	表と城下で素人たちが、居間で家中の娯居・婦子から年始の挨拶を申し上げた。本馬場でも初め、籠・兵法・茶の奉納、遊役人は会所で御用初め。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
189	享保10年	1725	正月21日	御表の城下で両町年寄・在浦庄屋から年始の挨拶を申し上げた。肝煎も同様。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
190	享保10年	1725	8月10日	城山の機運の山すその御所では、20人扶持以上の給人に1年に2度ずつ祭を祀らせることの作法があった。	温故知新録	高慶公御千日記(佐伯)	『温故知新録』p371
191	享保10年	1725	11月26日	今日、鹿狩り申し付け、城山と柳野山で狩りを行った。	温故知新録	高慶公御千日記(佐伯)	『温故知新録』p388
192	享保10年	1725	12月20日	兼年に行われる山城普請について、各家中の担当御が仰せ渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-10
193	享保11年	1726	正月5日	山城の普請小屋を大手門前に建てるため、作業員30人程を鬼屋村と両町から7日、8日に差し出すよう小林九左衛門が申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-12
194	享保11年	1726	正月6日	今年の普請で残っている箇所は、本丸外曲輪と二の丸、北の出丸の計の3か所と二の丸の居宅、北の出丸の御所の3か所である。	温故知新録	高慶公御千日記(佐伯)	『温故知新録』p192
195	享保11年	1726	正月7日	山城の普請小屋を7日から使い始めるため、両町年寄河野茂右衛門が作業員を連れてきた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-12
196	享保11年	1726	正月14日	櫓の普請のための材木の伐り出しの見分のため、黒沢山へ中根右衛門(左馬場)が出かけた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-12
197	享保11年	1726	正月17日	小林九左衛門が、家中からの大役の者27人を今月22日から隔日までの櫓の普請に取のからせるため、書付を出した。	温故知新録	高慶公御千日記(佐伯)	『温故知新録』p193
198	享保11年	1726	正月22日	小林九左衛門を高政公の廟堂に名代として行かせ、今度櫓の所の普請を申し付けたことを報告した。	温故知新録	高慶公御千日記(佐伯)	『温故知新録』p193
199	享保11年	1726	正月22日	今日から櫓の普請にかかるため、奉初めの祝儀で料理を取次以上ならびに普請奉行に下され、いずれも櫓の所で登城した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-12
200	享保11年	1726	正月24日	今日は吉日なので、6時ごろ山上で櫓普請の手奉初めを行わせた。	温故知新録	高慶公御千日記(佐伯)	『温故知新録』p194

文献史料記事一覧(9)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁史料番号
201	享保11年	1726	正月24日	千手初めを行き、総奉行小林九左衛門と普請奉行の4名は麻酔で詰め、大工棟梁が千手初めの儀式を百七よぐ済ませた。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p194
202	享保11年	1726	3月4日	明日5日に山城の平櫓の屋根を葺く作業員20人を両町へ申し付けようし渡された。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
203	享保11年	1726	3月8日	二の丸台から臼坪の峰通りまでは直線ですり足と丹右衛門が計測した。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p203
204	享保11年	1726	3月9日	古川仁左衛門に城絵図を渡し、本年の普請の次第について、以下5項目の上迄に申し付けた。外曲輪櫓・二の丸櫓・北の丸櫓、この分についてははいはい取掛かる。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p204
205	享保11年	1726	3月9日	二の丸の土蔵・西の丸の馬屋、これは今回のついでに申し付ける。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p204
206	享保11年	1726	3月9日	北の丸の馬屋は北の丸の櫓を普請するとき申し付ける。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p204
207	享保11年	1726	3月9日	二の丸の居宅以上の普請がすべて済んだうえで、時機を見て申し付ける。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p204
208	享保11年	1726	3月9日	すべての側面の板33間余は腰板を据く傍らように命じたが、腰板は取り、すべて白土壁にするこも検討する。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p205
209	享保11年	1726	4月12日	城山を天守と呼ぶ者がいるが、山全体は城山と呼ばれ、分けていざれば本丸・二の丸・西・北の丸・三の丸・大手・櫓門・葎木門又は櫓・石垣と呼ぶこと。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p213
210	享保11年	1726	4月12日	天守台とはその場所だけを言うべきである。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p213
211	享保11年	1726	4月26日	本丸二重櫓から鉄砲場までの距離を調べたところ、1日間は3間であった。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p220
212	享保11年	1726	5月1日	小林九左衛門に重要な城普請の総奉行を命じたところ、櫓も数か所あったが、悪いのは早く取上りしたので、100石加増する。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p221
213	享保11年	1726	5月1日	来る3日の棟梁上の祝儀に際し、料理人は午前6時頃に、給仕人は8時に仕出すこと、服類は紺黄包着用しないという達が来た。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
214	享保11年	1726	5月3日	今日は、吉日なので今朝5時過ぎに城の棟上げの儀式を済ませた。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p223
215	享保11年	1726	5月3日	我々は有卦(幸運)の年初卯に入ったので、祝いのため、表向きで能の略式演奏を申し付けた。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p223
216	享保11年	1726	5月3日	有卦の祝いがすべて済んで、山上へ行き、一通り見物をした。平櫓に於いて棟上げの供え物などを頂戴して祝った。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
217	享保11年	1726	5月3日	平櫓の棟上げの祝儀で家老たちが肴を差し出した。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
218	享保11年	1726	5月3日	平櫓の棟上げの祝いに料理を平櫓で藩主と摂津守と一緒に祝い、食事などをした。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
219	享保11年	1726	5月3日	取次格以上の者などに平櫓の棟上げの祝いの料理を、二の丸の小屋掛けの中で祝わせた。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
220	享保11年	1726	5月3日	御室へ平櫓の棟上げ祝いの料理を出させた。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
221	享保11年	1726	5月3日	平櫓の棟上げにつき、大工棟梁へ100疋を、腰櫓梁へは500疋あるいは300疋ずつを遣わした。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
222	享保11年	1726	5月3日	山上の祝いを行って、山を下りてから、主だった者は前に出て、今日の祝いが済んだ喜びを述べた。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p224
223	享保11年	1726	5月3日	このたびの城普請が一通りすべて済んだならば、金兵衛と九左衛門は月暮を決めて勤めを去るべきこと。	温故知新録	高麗公御千日記写(依傍)	『温故』五 p225
224	享保11年	1726	5月3日	櫓の棟上げの祝儀で、藩主と摂津守が平櫓にて取次以上と普請奉行へ山城で料理を下され、目見え以上は三の丸で家老中へお祝いを述べた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
225	享保11年	1726	5月3日	全ての棟上げの祝儀のため登山し、二の丸で取次以上へ料理を下された。目見え以上は登城しお祝いを述べ、中小姓以上は摂津守、内証へお祝いを述べた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12

文献史料記事一覧 (10)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁史料番号
226	享保11年	1726	5月5日	佛普請に精を出した坂本孫五右衛門・長谷川与左衛門は始金、今井太次右衛門は中小納に昇進、下川丹右衛門へは銀二枚が下された。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
227	享保11年	1726	6月8日	小林九左衛門から、明日19日に本丸地の屋根土居を葺くため、両町から作業員を多数差し出す予定と申し付けが、年寄へ申し付けた。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
228	享保11年	1726	6月27日	藩主毛利高慶より被代藩主・高政の仕留入部と築城時の仕留城について、また高慶の依伯藤修繕についての中申し。	監放知新録	毛田高寛公申覆覧	『監放』一 p301
229	享保11年	1726	7月11日	丹田慶要に平橋の申を出し付けたところ、精を出しよぐできたので、今後26人扶持を遣わす。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p246
230	享保11年	1726	7月12日	城普請役御の者・徒士の者・勤童・小頭、その他端々の者たちまで、今日褒美を遣わされた。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p246
231	享保11年	1726	7月12日	城普請成就の祝儀として、家老たちをはじめ普請奉行たちから書を1種ずつを差し出した。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p246
232	享保11年	1726	7月12日	今日会所において、惣住屋・町年寄・村邊の庄屋たちすべてへ今度の城普請の成就の祝いで料理を届かせた。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p246
233	享保11年	1726	7月21日	城普請が成就したので、今日完成の見分に出上へ行った。一通り見分し平橋で吸物などを出させた。取次以上の者も同様。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p248
234	享保11年	1726	7月21日	今年からの普請中に格別にお骨を折り大儀に思う。そこで我ら(高慶)が乗船以後15日の間は休息をせよ。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p248
235	享保11年	1726	7月21日	城普請のため、町・庄屋からずいぶん作業員を出している。藩主の留守中に人々を使わないようにせよ。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p249
236	享保11年	1726	7月22日	太田長兵衛(森藩家臣)が今度の城普請成就の祝ひにやて来た。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p251
237	享保11年	1726	8月9日	このたび山地の佛の普請が完成したので、江戸詰めのみ平右衛門に銀2枚と旗印5本を下され、7月12日にこれを祝った。その他の者にも褒美が下された。	監放知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『監放』八 p301
238	享保11年	1726		この度の佛普請については庄屋、肝煎、百姓までよく備出して働いたことを(殿様も)聞き、格別のことと思っておられる。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
239	享保11年	1726		今後御せ付けられる城普請については、役人の指図や聞いたことなどを、よそ者に一切語ってはならぬ。作業員と名乗りに言い聞かせること。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
240	享保12年	1727	6月23日	御台所様が御涼み所へ上る際に見かけた家中の者は、平伏したり笠を取ったりせず、よこばたをくちくち着ておいた。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
241	享保12年	1727	6月25日	代官から、殿様は御涼み所へ上るので、殿様や御台所様が御涼み所へ上る際に見かけた者は、備付平行き来してよいが、地方で見かけた際は心遣いをして礼を欠かないように申し付けた。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-12
242	享保12年	1727	6月26日	今度尾上茶屋を造るよう申し付けた。藩主・側室も思ひのままに行くと、家中の者・町人も迷惑することはない。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p268
243	享保12年	1727	7月15日	このたび佛の普請が完成したため、江戸のみ平右衛門へ使者の道城寺其左衛門によって銀を下された。	監放知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『監放』八 p316
244	享保12年	C246C252	7月26日	御手間の普請のための作業員50人を両町から差し出すよう、町年寄へ申し付けた。	依伯藤政史料	郡方町方御用日記	D-IV-13
245	享保12年	1727	11月28日	本年正月12日からの城普請について、本丸外曲輪・二の丸・北出丸の引込所・佛と二の丸の居宅・北出丸の馬屋・佛の腰板の取の所を小林に申し付けている。享保10年以前の普請は届出不要だと古川が伝えてきている。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p277
246	享保12年	1727	11月28日	本年の普請奉行・貴川右衛門・斎藤藤四郎・浅井平次左衛門は小林の差別を受けるよう申し付けた。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p278
247	享保13年	1728	正月12日	二の丸北側の二重櫓などを普請することを、高政公座堂へ小林典勝を名代として報告させた。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p287
248	享保13年	1728	正月12日	今朝は吉日なので、手筈初めさせた。この日は赤飯・吸物・酒を藩主と御留守で祝った。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p287
249	享保13年	1728	3月15日	二の丸佛・北出丸の塙の上塗り、漆喰付けが終わる。佛の分所とも本日限りで完了した。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p296
250	享保13年	1728	6月21日	二の丸居宅を屋根(葺)と下々の者が言うことは自由、御殿と言うことは必要な旨を、御へ申し付けよ。	監放知新録	高慶公御手日記(依伯)	『監放』五 p307

文献史料記事一覧 (11)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
251	享保13年	1728	6月21日	小林典勝に城普請の総奉行を申し付けたところ精を出し、成就し差回も正しく、大変耐久いことなので50石加増する。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p309
252	享保13年	1728	6月21日	今度の城普請も成就した。岩本平左衛門へ祝儀に銀10枚を遣わず。側用人の4人は額を出したので加増する。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p310
253	享保13年	1728	6月21日	河野左兵衛は以前に不届きなことがあったが、城普請が成就した祝いなので、以前の如く始末を遣わず。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p311
254	享保13年	1728	6月21日	このたび因元の普請が完成したので、慶縁から若殿様へ肴などを祝いとして進上なされた。若殿様からも肴などを進上なされた。	慰故知新録	元録・定本・正徳・享保日記	『慰故』八 p315
255	享保13年	1728	6月25日	享保11年から今年7月までで完成した城普請は次の通り、本丸守台・二重櫓・向所外曲輪・二重櫓・二の丸・二重櫓・向所曲輪・向所平櫓・向所居宅・西及び北出丸・二重櫓が所・向所馬屋が所・惣知蔵板敷の修復。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p314
256	享保13年	1728	7月朔日	今日の城普請成就の祝儀に、江戸の奥向き者へ貸し付けた金銭があれば、今までの分は遣わずから、申し付けよ。今後のものではない、間違わないように。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p317
257	享保13年	1728	7月6日	来る22日に山上の城中すべて完成の見分をするので、家老たちは、いつものお供をする。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p318
258	享保13年	1728	7月10日	山上の番人として、西出丸櫓と西出丸門櫓の基所に小頭を詰めさせる。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p322
259	享保13年	1728	7月20日	幕府は人交代でめしを申し付ける。岡崎郡右衛門、長谷川左衛門、大島半蔵、浅井平次右衛門の、小林典勝の差回を受けよ。1人は狂夜詰め、食事は命当。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p322
260	享保13年	1728	7月20日	本丸の内外・二の丸居館並び西・北出丸の隅々まで、気をつけることを第一とせよ。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p322
261	享保13年	1728	7月20日	留守になってからの次の期・止間番を古川・左衛門58人に隔不同に申し付ける。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p323
262	享保13年	1728	7月20日	今度の城普請はすべて成就した。今後、修復のため総勢18人を召し起す。1組20人の編成とする。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p324
263	享保13年	1728	7月20日	年ごとに城の修復は多くなるので、これまでの棟梁2人に職人の大工18人を加え、修復のため城代付きに申し付ける。18人は足軽組3人ずつ配分する。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p326
264	享保13年	1728	7月21日	今日は吉日なので、若宮八幡の遷宮のため、8時ごろ城を出て、神社に参拝し、10時ごろ城に帰った。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p327
265	享保13年	1728	7月21日	社参への供は益田兵衛以下7名。城に帰って以後遷宮の祝い施の略式演奏を申し付けた。酒んで料理を扱う。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p328
266	享保14年	1729	正月15日	具足間の祝いを信間に譲りて慶と若殿は具足見の祝いをした。酒んで、新しい居間において床の掛けの掛初めがあった。	慰故知新録	享保・元文・寛保・延享日記	『慰故』九 p35
267	享保14年	1729	正月27日	本丸守台・外曲輪・二の丸・西出丸・北出丸・櫓門・居宅・馬屋など、昨年中にすべて完成したので、二の丸の居宅で祝った。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p333
268	享保14年	1729	2月9日	城山の平瀬(シタ)は自由に伏つて良いが、不作法をしないことはもちろん、4人につき1人を付き添わせ、たばこは禁止し、火の用心は人念にする。	佐伯藩政史料	御仕置帳	06-430
269	享保14年	1729	2月29日	大手櫓門前の川が洪水を起こしたのは、砂で大分埋まったことが原因なので、料々から作業員を出し3月中に掘り上げる。	佐伯藩政史料	御仕置帳	06-430
270	享保14年	1729	3月16日	去年完成した城の城脚の下地が乾かぬうちに上塗りしたため、すべて割がれた。塗り直させるので、両所から心算のある者を差し出すこと。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-15
271	享保14年	1729	4月25日	小林典勝から、山に消火のための水を運ぶために両所から作業員3人を差し出すように申し付けがあった。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-15
272	享保14年	1729	4月26日	明朝、山城へ藩主の所持品を上げるため、作業員1人を申し付けた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-15
273	享保14年	1729	4月27日	小林典勝へ、城普請もすべて成就し大慶である。よって祝いとして刀を一振遣わすことを申し伝えた。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p334
274	享保14年	1729	4月27日	中根左治馬・古賀清太に追加・役料を申し付けた。黄川右衛門、谷川源左衛門、高妻嘉太に褒美を取らせた。二の丸で申し付けた。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p334
275	享保14年	1729	5月3日	中辻右衛門前に忍草の火の衝を信間に譲りて5棟吹きさへ駆した。残りは渡場で行わせ、尾/上の茶屋から一振した。	慰故知新録	高慶公御手日記(依傍)	『慰故』五 p339

文献史料記事一覧 (12)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
276	享保14年	1729	5月19日	日照りが続いたため、大手門前で両町の雨ない強りをすよう御せ付けられ、18時から夜3時頃に雨が降り出すまで降り続けた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-15
277	享保14年	1729	6月3日	佐伯の城普請がすべて完成したため、4月27日に二の丸でお祝いがあった。	監故知新録	元録・宝永・正徳・享保日記	『監故』八 p332
278	享保14年	1729	6月5日	圓元の城普請がすべて完成したので、江戸でも取次以上と首本基助ならびに医師たちと奥女中へへらぬの料理を下された。	監故知新録	享保・元文・寛保・延享日記	『監故』九 p37
279	享保14年	1729	10月22日	妻の子の祝いなので、大八郎・摂津守・鹿太郎は藩主と一緒に祝い、松次郎は只は書院での祝いの後、居間で1人酌を遣わす。理由は帳面の奥に書いてある。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』五 p369
280	享保14年	1729	10月23日	在城のとはは今夜正月3日に二の丸で雑煮などで祝う事に、これを定めと心得て、皆に申し付けられた。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』五 p369
281	享保15年	1730	正月3日	今日、二の丸へ行き雑煮・吸物などで摂津守と一緒に祝った。松次郎・貞勝などに相伴を申し付けた。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』六 p181
282	享保15年	1730	正月3日	二の丸で雑煮、吸物などをいただき、摂津守と祝いの儀式をした。出席者と調度品、兼虎咽の区、床の部屋には有信等の三福社(信玄・美濃守・扇助)。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-103
283	享保15年	1730	2月20日	かねて御せ付けられていた大手門前前の汐入の堀を改修する件は、28日から来月1日まで村の百姓たちで堀の上げよう御せ付けられた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-7
284	享保15年	1730	4月19日	庭の石を直すので、両町から作業員3人を差出し、黒門(三の丸北虎口門)下に明日6時に集まるように申付けがあった。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-16
285	享保15年	1730	5月5日	用人の中根左治馬から、船頭町高丸堀に浦方から青石2つが明日6日に来るので、朝のうちに庭の玄關までおけさせるよう両町年寄に御せ付けられた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-16
286	享保16年	1731	正月3日	今日、本城へ小林兵衛が参り、番人・城代付・大工・足輕らも参上し、雑煮・吸物・酒をされた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-108
287	享保16年	1731	正月15日	本城を囲むため、浦方庄屋は正月の料理を下される際に、一人につき煮石一つずつを持参し、西出入の下の橋端で城代階の御召ほかに引き渡すこと。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-8
288	享保16年	1731	2月14日	本城が出火・雷火があったため、両町の年寄と酒席に、大木籠一石18007個と小水籠5個を用意し、人員を9月は計46人、10・2月は計47人を準備しておよぶ申付けられた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-17
289	享保16年	1731	4月4日	両町の酒屋が、先日申し付けられた火酒用の水籠に防水地置をする呉漆の給付を願ってきたので、翌15日を与えた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-17
290	享保16年	1731	5月22日	先日、両町の酒屋へ申し付けた大木籠5個、小水籠5個ができた書付により報告があった。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-17
291	享保16年	1731	8月19日	御室が回る場所の普請ができ、今日引越すので祝いとして、肴1折を用人によって遣わした。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』六 p257
292	享保16年	1731	10月15日	本城の昨日当番だった給人・小畑たちへ三の丸の次の間で玄關の祝いを遣わした。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』六 p272
293	享保17年	1732	2月28日	(殿様)留守中、三の丸での当番は、西名兵右衛門・中根左治馬・長講七右衛門・長谷川与左衛門・益田圓太夫が交代で勤める。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-9
294	享保17年	1732	8月2日	益田金兵衛を寺にやるとあり、城内のことであるから城の裏門を出て入り成寺まで遣わした。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』六 p344
295	享保19年	1734	正月3日	今日二の丸へ行き、雑煮・吸物を祝い、松次郎並びに家老たち・医者たちに相伴を申し付けた。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』七 p3
296	享保19年	1734	正月3日	本日、例年のおつ二の丸へお出でにならぬ雑煮、吸物などで祝った。松次郎は只の出席者と二の丸御床の調度品について。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-116
297	享保19年	1734	正月22日	藩主は今年90歳なので、本日年賀の祝いとし、大明神などに名代を遣わした。居間に床敷をし、自分の賀表を置き、寅太郎・側室・家老などが新賀の札や年賀の祝儀を送ってきた。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』七 p11
298	享保19年	1734	正月22日	家老や家臣たちが祝儀を送ってきたので書院の次の階の敷居御に並べ披露した。また居間で江戸から送られた肴を披露した。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』七 p11
299	享保19年	1734	正月22日	表居間で我々と寅太郎は小話をし番、子孫繁昌・長生家・程々を祝った。寅太郎は幼年なので、料理は居宅で祝わせた。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』七 p12
300	享保19年	1734	正月22日	寅太郎・側室、次に源十郎・安次郎へ居所で料理を祝わせた。	監故知新録	高慶公御手日記(享保)	『監故』七 p13

文献史料記事一覧 (13)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
301	享保19年	1734	正月22日	源十郎は奥国に出で、表らから鬻斗と喚物・金を遣わした。それが済み源十郎から料理を出し祝った。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』七 p16
302	享保19年	1734	正月22日	高慶が表国に着せしむると共に、大和守から大明神・若宮八幡での祈りと礼を送ってきた。松平源十郎から祈り状を送ってきた。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』七 p10
303	享保19年	1734	2月10日	会所は置業を執行する所なので、諸役人たちは日々を改め、行儀正しく勤めよ、酒を飲むことは慎むべき、勤善態度が良くない。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』七 p25
304	享保19年	1734	2月23日	城郭の普請について、櫓・門・堀・石垣・堀・橋だけは、どの藩でも願いがあれば幕府から奉書を取る。幕府へ申し上げるのはこの分だけである。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』七 p34
305	享保19年	1734	2月23日	3、4尺ぐいや1、2間ぐいのことは、様子を見て目立たないように直せて済むことである。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』七 p34
306	享保19年	1734	2月23日	三の丸の3か少々掘んだ埋めの上増いが損なわれた場所は、役人が物品の購入もせず可能な方は、修繕すべきだと伝えた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-10
307	享保19年	1734	2月23日	一昨年、奥・引間を修築した際は、すべての社を根廻した。基の間の木の修繕が成っているので、大工に見分けて修繕を申し付けろべきか、その費用の見積りをこまへ送れ。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-10
308	享保19年	1734	2月23日	奥の基の間のいすは、灰石(凝灰石)を用いていたが次第に悪くなったので、取り替えるよと五右衛門と兵衛が申すので、取り替えるべきか。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-10
309	享保19年	1734	2月23日	重要な城壁で本年中に修築が計せられず、できなかつた場所についてはしっこのめ直し、必要なもの見積もりを添えて江戸へ伺ふよう。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-10
310	享保20年	1735	2月8日	佐伯城修築願いの下絵図を、今月の用番老中の松平左近将監へ提出した。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』六 p46
311	享保20年	1735	2月8日	佐伯城修築願いの下書きを提出したが、絵図を提出せよとの指示があり、同日15日に願書と絵図の両方を提出し、受理された。	隠故知新録	享保・元文・寛保・享保日記	『隠故』九 p92
312	享保20年	1735	2月8日	その箇所は本丸の外曲輪の北東の間で、幅が10間4尺、同じ場所の下の石垣が、高さ1間・横1間4尺にわたって崩れている。	隠故知新録	享保・元文・寛保・享保日記	『隠故』九 p92
313	享保20年	1735	2月8日	同じ場所の石垣の下の方、高さが3間1尺・横1間4尺にわたって崩れている。	隠故知新録	享保・元文・寛保・享保日記	『隠故』九 p93
314	享保20年	1735	2月13日	城の修築の絵図と書付を正式に提出せよとの指示があったので提出した。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』六 p46
315	享保20年	1735	2月19日	佐伯の城の修築の件は、願いとおりに奉書によって沙汰された。挨拶のため、松平左近将監方へ伺った。	隠故知新録	元禄・宝永・正徳・享保日記	『隠故』八 p387
316	享保20年	1735	2月29日	去る15日に願い上げた城の修築は願いのとおりに申し付けるとの奉書が渡された。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』六 p48
317	享保20年	1735	3月28日	昨年1月27日の嵐雨洪水で壊れた、本丸外曲輪北の堀、石垣と石垣下の修築は、浦方から石垣の取替を、在方へは山城へ運び上げるよう申し付ける。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
318	享保20年	1735	四月初日	御用石を上流の船で運送したものを松ヶ森において石の数を確認し、豊庄屋古野茂右衛門へ報告すると、茂右衛門から浦庄屋たちへ伝えるよう申し伝えた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
319	享保20年	1735	四月初五日	安芸国江波の石垣築は石垣を築くのが非常に巧みなので、4人を雇い、給料の相談が決まれば早々に佐伯まで来るよう伝えること。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
320	享保20年	1735	四月初八日	必要な御用石は355個と見立てたので、中浦の船人に不公平のないように割当てよう、古野茂右衛門を呼び出して申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
321	享保20年	1735	四月初十日	先般古野茂右衛門へ申し渡した上流の御用石300個は、松ヶ森へ戻らず到里し、茂右衛門が受け取ったと番頭へ申し伝えた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
322	享保20年	1735	四月初十日	山城の石垣普請に不足している御用石1,200個のうち1,000個は浦方で割石にして今月中に山へ上げること、残り200個は在方に割付ける。大庄屋はめづり味して運ぶこと、東月は農繁期になるので今月中に船を出すこと。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
323	享保20年	1735	四月初十日	以前に見立ておいた石垣の石材355個は、中浦から松ヶ森へ戻らず到里したと古野茂右衛門が御用番へ申し伝えた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
324	享保20年	1735	4月6日	城修築の奉書には細記載しない現図だが、佐伯城の修築絵図には描かれていたので、奉書でも記載することとしたと江戸本丸日記に記された。	隠故知新録	高慶公御手日記(依前)	『隠故』六 p51
325	享保20年	1735	4月6日	本丸日記の内容は次のとおりで、長野善太夫が内々に聞かせて下さった。	隠故知新録	享保・元文・寛保・享保日記	『隠故』九 p96

文献史料記事一覧 (14)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
326	享保20年	1735	4月6日	毛尾園防守方から豊後国佐伯城修葺願いを輪団にして提出した中に、願のことで1項目立てていた。	隠故知新録	享保・元文・寛保・延享日記	『隠故』九 p96
327	享保20年	1735	4月6日	奉書の中には願は記載しないが、願い主からの輪団と海に出ていたので奉書に記載するよと、松平左近将監から言われた。	隠故知新録	享保・元文・寛保・延享日記	『隠故』九 p96
328	享保20年	1735	4月6日	願期が決まっていることなので、今後は奉書の中には願とは記載しないように心得るべきことである。	隠故知新録	享保・元文・寛保・延享日記	『隠故』九 p96
329	享保20年	1735	4月13日	安芸国江波から石垣職人4人が本日到着した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
330	享保20年	1735	4月29日	三の丸の腰郭が例年どおの塩屋村に御せ付けられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
331	享保20年	1735	4月30日	下野・塩屋村から作業員を出して、中野・塩屋村の境までは下野村が、善賢寺から中野・塩屋村の境までは塩屋村が、腰郭掃除を大急にするよう、両村へ代官から申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
332	享保20年	1735	5月26日	居間で資太郎及び松次郎・藤十郎・安次郎が着城の喜びに参った。宝物をはじめ物類以上の者、医者たちが喜びを申した。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p39
333	享保20年	1735	6月3日	在着の祝儀を居間で資太郎と一緒に料理で祝い宴事をした。次の朝で小林九左衛門たちへ料理を祝わせた。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p40
334	享保20年	1735	6月12日	鐘樓は、5月25日に国元の城に到着させたとの用状が江戸に着いた。家中の者たちは表向きへ出て喜びを申し上げた。	隠故知新録	元禄・宝永・享保日記	『隠故』八 p389
335	享保20年	1735	6月13日	内膳(松次郎)が出陣したので、居間で手ずから服斗を遣わせ、後物など祝い宴を遣わした。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p48
336	享保20年	1735	6月15日	本丸外曲輪の石垣修葺のため、石を切り出す作業員へ扶持金を下されることを、会所で書付による申請へ申渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-21
337	享保20年	1735	6月15日	本丸外曲輪が崩れたか所の修葺に必要な石数を、我々は3,000石と見積もり用意したが、江波から届いた石垣額は2,000石は必要だと申しした。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
338	享保20年	1735	6月15日	本丸外曲輪の石垣修葺に必要な見積もった石を用意したが、不足分を在藩へ御分当した。ただし御用金取の期間がかかる時期なので、別に支給する。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
339	享保20年	1735	6月26日	居間で中村彦左衛門・斎藤助助の役目と加増を申し付けた。挨拶を受けて、手ずから新紙を渡し、二人の者が献上された。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p50
340	享保20年	1735	7月17日	大手門下の石を傷めた土手の端の壁が、風雨でたびたび崩れるので、端を石垣とするべきだろうかと、その料りが出された。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
341	享保20年	1735	7月30日	本丸外曲輪の石垣修葺は、29日までに残らず済ませた。来月2日から練師に取り掛かる。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p55
342	享保20年	1735	7月30日	先日申し付けた大手門下、下の道の両脇を石垣にするよう申し付けたところ、取り掛かった。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p55
343	享保20年	1735	7月30日	練師は今まで高さ8.5寸のところ、7尺に申し付けたと、更に太夫になるだろうと役人たちが書付によって申し出、その通りとした。	隠故知新録	高慶公御手日記(依伯)	『隠故』七 p55
344	享保20年	1735	7月31日	本丸外曲輪の山が崩れた箇所の石垣修葺と修繕、願の下の石垣は29日に残らず完成し、このほか丈夫に仕上がった。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
345	享保20年	1735	7月31日	石垣が完成したので、来月2日から練師の修葺に取り掛かる。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
346	享保20年	1735	7月31日	今日から大手門下の土手両脇の石垣普請に取り掛かる。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
347	享保20年	1735	7月31日	本丸外曲輪の練師は高さ8.5寸だったが、今回の修葺で7尺とし、石垣から6寸ほど内側に設ける太夫になり、足場にもなる。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
348	享保20年	1735	7月31日	これまでの額は、練師長さ14間尺、高さ8.5寸、土台厚2尺2寸、土階厚2尺3寸、高さを7尺とした場合、厚さは同じでよいだろうか。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
349	享保20年	1735	7月31日	大手門下の土手の両脇の石垣は、奉行山口小太右衛門へ命じてよいだろうか。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
350	享保20年	1735	8月2日	大手門番、御手門番は、庭の木の枝や花、草花を城内から外へ持ち出すことについて、御用人の許可証がなければ通してはならない。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11

文献史料記事一覧 (15)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
351	享保20年	1735	8月19日	本丸外曲輪の山崩れの箇所を石垣修葺が完了したので、芸州江波の石垣築き4人を補した。修葺が太早にできたので、賞金を取らせた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-11
352	享保20年	1735	9月24日	今度の本丸外曲輪の山崩れの修葺などに使った人数と石数は、作業員17,309人、737人家中の役夫、総石数は合計39,010。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p92
353	享保20年	1735	10月31日	先ごろ、おした本丸石垣修葺は残らずできた。用掛、目付らには料理を、徒士・小頭・足軽などには酒肴と酒を配させた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p93
354	享保20年	1735	10月19日	今日山城・石坪山の積荷をさせたが、積は出ず、荷物が濡らぬ午後2時ごろに帰城した。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p98
355	享保21年	1736	正月3日	例年のと異なり、山城へ上がり、二の丸の屋形で取次以上の者と吸物、酒で祝いをした。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-22
356	享保年間か			初代藩主高純から4代高慶までの佐伯城の築造や城下町建設などの事績と分家の創出、家臣たちの忠告や地方などについて記録・問書などによってまとめたもの。(4代高慶時代の編纂か)	温故知新録	佐伯藩前後高慶公等事録并(出家臣問書等見)	『温故』一 p321
357	元文元年	1736	9月11日	11日21時頃、本町の浅見左衛門宅から出火し、内町は残らず焼失して翌日2時過ぎに鎮火した。	温故知新録	高慶公御千日記写(江船)	『温故』六 p49
358	元文2年	1737	2月6日	角石から船場西礼周までの川筋の石垣は、洪水の度に不安定となってきたので修葺すべきか、その場合、江波石垣築きに掛け負わせるべきか伺う。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-13
359	元文2年	1737	2月7日	先般伺った角石から下の船場までの川筋上手の石垣について、修葺させるための江波石垣築きの賃金を吟味し、太主に仕上げけることを奉行に申し上げた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-13
360	元文3年	1738	正月3日	例年のと異なり、取次以上が(藩主の)お供をして山城へ上がり、二の丸の屋形にて吸物と酒でお祝いをした。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-24
361	元文4年	1738	正月元日	御の上朝、室中の面々が登城し、書院で宮太郎様、内膳様へ年始の挨拶を申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-25
362	元文4年	1738	正月6日	佛門下で吸物の打ち初めをして、宮太郎様、内膳様も打ち初めをなされた。取次以上は打ち初めをおせ付けられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-25
363	元文4年	1738	2月21日	このところ山城に入り込む者がいるが、子供でも以ての外のことである。下々の者に慣れよう言明せしめよう、諸役人に申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-25
364	元文5年	1740	正月3日	二の丸での祝いの儀式は、天候が悪いため延期した。	佐伯藩政史料	在所日記	D-IV-12
365	元文5年	1740	11月17日	城山の落木を家中の下々まで下さることについて御せ付けられ、今日から19日までの3日間の前置きであると申し渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-26
366	元文6年	1741	正月3日	藩主の名代として源十郎様が本城に出られ、雑煮、吸物などでお祝いをなされた。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-139
367	元文6年	1741	正月3日	名代として源十郎様が二の丸へ参上した。	佐伯藩政史料	在所日記	D-IV-15
368	元文6年	1741	3月5日	例年通り花見を、書院で源十郎と一緒にに行い、黒木八郎が相伴し、次の間で名代以上に料理を配させた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p247
369	寛保元年	1741	4月3日	江戸の医者・榎本謙部を佐伯城へ呼び寄せ、しかり容態を見せた。薬を服用した。次の間で吸物などを出された。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p251
370	寛保元年	1741	8月3日	7月21日の夜前夜風の嵐雨洪水について、城内の被害などを届けるよう江戸へ手紙を出した。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p253
371	元文6年	1741	8月24日	来る27日に、御城の書院の小間で嫌ひ芝居をご覧になると命じられた。その際の同席者と御長についての書申	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-27
372	寛保元年	1741	8月27日	戸穴村の大宮八幡祭礼のため来ている嫌ひ芝居を呼び寄せ、書院で一覧した。取次以上、中小姓以上の役人たち等に見物を申し付けた。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p253
373	寛保元年	1741	10月8日	五旗などで祝儀の御長調休助たちへ居間で遣わし、書院では源十郎が出席した。目見筋の者は居間で取次が披露した。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p256
374	元文6年	1741	正月元日	奥の間で右膳をはじめ、中老たちの挨拶を受け、盃を遣わした。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p240
375	元文6年	1741	正月元日	書院で高慶の名代で源十郎が出席し、書院で家中の者から挨拶を受け、見士以下の者が広間に並び一同に正月の挨拶をした。	温故知新録	高慶公御千日記写(依傍)	『温故』七 p240



文献史料記事一覧 (16)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
376	元文6年	1741	正月元日	居閑で名代の源十郎が給人の嫡子の挨拶を受けた。	隠知新録	高慶公御千日記(伏見)	『隠知』七p240
377	寛保2年	1742	正月3日	源十郎が山城に上がり、取次以上も登城してお喜びを申し上げた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-VI-28
378	寛保2年	1742	11月16日	備門は今までのと18時頃から22時頃までは、酒の門を開け、城内から物を運ぶときは当番の目付の指揮を受けること。右所前の門は18時頃に閉め、6時頃に開けること。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-18
379	寛保2年	1742	12月2日	城内の各所へ渡す塩と炭の量について、本城、三の丸、御養それぞれに建物、部屋の名称と行付の数、種類について。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-18
380	寛保3年	1743	正月3日	鶴様が病のため、名代として源十郎様が本城へ登られた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-Ⅷ-142
381	寛保3年	1743	正月3日	源十郎が役人たちと三の丸へ参上した。	佐伯藩政史料	御用日記	D-VI-22
382	寛保3年	1743	7月11日	山城の屋根の青銅瓦が紛失した件について、奉行所に訴え吟味したところ、盗んだ者と買った者が白状したので牢に入れた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-VI-20
383	寛保3年	1743	7月11日	上野村から歳を暮っていた若吉が、仁助に頼まれて御瓦1枚を中町八へ売ったことを白状した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-VI-20
384	寛保3年	1743	7月11日	本城の渡徳屋根そのほか谷部に置いた御瓦1枚と、三の丸左間屋根の谷部に置いた御瓦1枚の紛失(盗難)について、犯人の処罰。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-19
385	寛保3年	1743	7月11日	御瓦を買い取った町人5人は不届き者なので牢に入れるべきだが、まず弥三兵衛へ掛け、退って処罰することとした。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-19
386	寛保3年	1743	7月11日	盗人のうち、仁助は両名兵衛南門の小頭、山崎伝次右衛門と同格なので、伝次右衛門が差配するよう、兵衛南門へ申し渡した。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-19
387	寛保3年	1743	7月12日	船頭町惣右衛門・内町理八・七部兵衛・市部兵衛・福八は盗品の瓦を買い取ったため罰や牢に掛けたいが、この度牢を申し付けた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-VI-20
388	寛保3年	1743	7月19日	御瓦の盗品と売買にかかわった犯人に照して戸を利したが、外見も見苦しく、若宮八幡の祭礼などにも差支えるため、過料を申し付けた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-19
389	寛保3年	1743	7月19日	盗品の瓦を買い取り、屋根に掛けられた内町七部兵衛・同市部兵衛・同福八・同理八に引、過料銀20枚を支払うよう渡した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-VI-20
390	寛保3年	1743	12月21日	御瓦を盗んだ、御役小人赤六・福八、施屋村喜七、内町仁助の4人は牢半させていたところ、大越により牢を出て城外への追放とした。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-VI-20
391	延享元年	1744	5月2日	宗門奉行の権右衛門によると、妻の12日に御城内において新嘗を行うので、白坪大明神と若宮八幡の神主に申し付けた。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-1
392	延享元年	1744	5月2日	御作奉行の基市左衛門が、この度の馬屋の屋根修葺に必要な資材と数量をまとめた。かき灰、ふのめ、油、古平銅など。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-1
393	延享元年	1744	5月2日	御作奉行の権右衛門が申すには、城内の御用屋敷の修繕にはたね(葉種油)が5斗4升5合、代銀1474と必要である。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-1
394	延享元年	1744	5月2日	城内の庭にあった藁を、作事奉行と使土目付らが立ち会って取らせた。合計93個で、うち88個は丸藁、5個は中藁であった。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-1
395	延享元年	1744	7月2日	作事奉行の話によると、米蔵の修繕に大工3人、木挽2人が必要であり、さらに本城の修繕のため掃子、要の修繕のため掃子打場をつつ遣わした。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
396	延享元年	1744	7月6日	作事奉行が、三の丸勝手門の屋根、城内屋敷、御用屋敷、米蔵の修繕に必要な資材と作業員を勘定書へ申し渡した。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
397	延享元年	1744	7月21日	作事奉行が、米蔵の屋根修繕に使う竹は山奉行へ、掃子は作事奉行へ申し渡し、丸物(柱か)は堀山で(木を)伐ると申し渡した。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
398	延享元年	1744	8月6日	作事奉行の平助が申すには、前晩三の丸馬門脇の井戸付近の石垣が崩れた。米蔵の修繕に差障りがあるので、早々に修葺するよう申し付けた。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
399	延享元年	1744	8月11日	晴10日の暴風雨に因り、本城、三の丸、役所、家中や両町が破損したと役人たちが書付を差出した。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
400	延享元年	1744	8月12日	豊野市左衛門の話によると、在野右衛門と坊主の丸屋田首善の家が一昨日の暴風によって大破したので、それぞれに資材や仮設の住居を提供した。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2

文献史料記事一覧 (17)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
401	延享元年	1744	8月16日	源十郎の部屋障子等25枚の部の替えに必要な紙12束ほどを、役人が受け取ったとの書付があった。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
402	延享元年	1744	8月17日	確認した二の丸の屋根と土蔵は当分の間は修復しない。片づけて使える部材は、三の丸の修復に使用する。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
403	延享元年	1744	8月19日	二の丸の屋根や土蔵を本日片付けるので、長谷川月下が見分のため登城した。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
404	延享元年	1744	8月26日	勘定廻の作之丞によると、修復に必要な資材について書付があった。かや、なまげ、から竹、縄、栝枝、樺、なかつら、わび縄など。	佐伯藩政史料	御用日記	古文19-2
405	延享元年	1744	10月6日	作事奉行の平助によると、三の丸書院向かいの塙の修復に必要な資材、作業員がどれくらい必要か、書付の提出があった。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-1
406	延享元年	1744	10月	今回の嵐風洪水の被害を、公儀へ届け出た旨の書状が江戸から到着。堀は全ての二重櫓が破損し、二の丸平櫓、本丸外曲輪南の石垣も損壊した。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-20
407	延享元年	1744	11月11日	城山の倒れた木を、8月の暴風雨により家が壊れた家中の者に提供する。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-1
408	延享元年	1744	11月21日	三の丸の塙や塙(庭園方)の復旧に必要な材木等の見積り。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-1
409	延享元年	1744	12月6日	山奉行から塩屋村の庄屋へ城山・萩山の御立林にて木材と宮加藤を与えられた。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-1
410	延享2年	1745	正月21日	8月10日の嵐風で折れた本材を、明後日22日から下されることについての注意を、山奉行をはじめ諸役人に申し付けた。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-2
411	延享2年	1745	12月6日	会所にて、山城が大破しているの、来春から修復するつもりであることを申し渡し、見積りを求めた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-31
412	延享2年	1745	12月か	城修復のための費用と船積の船賃のための費用の確保のため、城山の樺、榿木を伐採して売却することなどについて。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-21
413	延享3年	1746	正月31日	源十郎をはじめ、家老、郡代、日付が本城へ上がった。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-32
414	延享3年	1746	5月17日	今度の山城修復のため、給人までは知行高に応じて夫役を差し出すべきこと、合わせて格別修復なので、用意ができ次第、申し出すことを会所で申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-32
415	延享3年	1746	5月17日	今年春からの城普請に際し、今月21日から土取の奉行を家中の5人に即せ付けられ、1か月に隔りずつ交代で行うことが申し付けられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-32
416	延享3年	1746	5月20日	本城の修復が今後即せ付けられるにあたり、当分の土取は家中で行うので、奉行5人の家で1か月に1度ずつ行いお任せ付けられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-32
417	延享3年	1746	5月22日	本城の土取の初めのため、奉行は焼らず登城し、作事奉行、小頭も出席した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-32
418	延享4年	1747	正月31日	今日、定めの上山城へ上がろうとしたところ、雨天のため延期した。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-4
419	延享4年	1747	正月31日	雨天のため本城への登山は中止した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
420	延享4年	1747	正月11日	今月3日の山城に上がりが、雨天のため延期したので、本日家老や大工棟梁が(山田に)話めた。	佐伯藩政史料	御用日記	古文20-4
421	延享4年	1747	3月1日	今月12日から本城修復に取掛かるので、このことを家中一同に家老から言い渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
422	延享4年	1747	3月1日	12日から本城修復に取掛かるので、城で書付によってそれぞれに申し伝えた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
423	延享4年	1747	3月12日	本城の普請が始まったので、(佐久間)織右衛門が登城した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
424	延享4年	1747	3月19日	本城に用いる金属製の板を府内の駄原に発注したので、船頭町年寄張三兵衛父子に板の木型、絵図、注文書を送し、近々向ふよう申し付けた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
425	延享4年	1747	3月22日	山城の普請初めを行い、全員揃って出席した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33

文献史料記事一覧 (18)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
426	延享4年	1747	3月27日	龜龜屋惣惣兵衛が、府内駄原の金屋原右衛門に唐金青銅の鍍を発注して来た。住家にかかった費用や船の船費、鞍回、木疋、注文書も家老中へ差し出した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
427	延享4年	1747	4月28日	船の船費を確認し、惣惣兵衛に注文のとおり入金に仕立てるよう申し付けさせたところ、府内へ出向き直接伝えたこと申出された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
428	延享4年	1747	4月30日	鍍を注文する絵図には打穴をぬけるよう御せ付けられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
429	延享4年	1747	5月3日	船の用に使う船の発注について、船頭町龜龜屋孫三兵衛が府内の金屋原右衛門方へ出向き依頼したところ、今月20日頃には一対成るとのこと。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
430	延享4年	1747	5月3日	本城の船の発注について、船頭町龜龜屋孫三兵衛方から府内駄原金屋原右衛門方へ絵図を渡して、間違いの無いよう伝えることを申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
431	延享4年	1747	5月9日	本城の船について、何右衛門へ今月4日に打穴をぬけた絵図を渡したところ、鞍回通に申したところ、入念に仕立てると申したとのこと。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
432	延享4年	1747	5月11日	船頭町龜龜屋孫三兵衛方から府内駄原金屋原右衛門方へ、御用のための機費を度々遣わしたので、必要代価を書き付けて差し出すよう伝えた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
433	延享4年	1747	5月11日	両町年寄から、この度の修繕は大規模なので町からも作業員の加勢をしたい旨を家老に申したところ、奇病なことから、追って御せつける中申した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
434	延享4年	1747	5月25日	本城の修繕のための薪木(掃子)が不足するので、町人所有の石の貯倉を借用する件で、目数と寸法を書き付け、後に同様の旨を返却することを両町へ申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
435	延享4年	1747	5月29日	金屋原右衛門方から龜龜屋惣惣兵衛方へ機費が来て、注文を受けた船が出来たので、人を遣わしてはいと申したので、そうすよう申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
436	延享4年	1747	6月2日	本城修繕のための材木を運ぶ苦役なので、両町から船と作業員を出し、山城へ持ち上げさせるよう申し渡した。船、積の数量と作業員数について。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
437	延享4年	1747	6月3日	龜龜屋孫三兵衛が金屋原右衛門方へ遣わした者が、船一対を持ち帰った。このほか良い出来なので、孫三兵衛へ褒美を取らせることを申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
438	延享4年	1747	6月6日	両町から先月中に差し出した作業員は合計38人。18人は内町からで、うち小船1艘1人役、15人は船頭町からで、うち小船4艘4人役。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
439	延享4年	1747	6月6日	先日御せ付けられた、船材木と掃丸太を両町から山城の上まで持ち上げる作業員について、御用書へ差し出した。材木数量と作業員数について。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
440	延享4年	1747	6月6日	本城の差出の修繕のため、これまでは佐久間織右衛門と置川土木に当直を御せ付けていたが、今日から両名兵右衛門を加えて三人に御せ付けられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
441	延享4年	1747	6月16日	本城に建設人と呼ばれ、他約を心掛けること、今年は大漁なので年貢を油断なく取立てること、そのほか本城の修繕をすることを家老中から申し渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
442	延享4年	1747	6月21日	本城の修繕のため人情を出しているので、褒美が下されることを御せ渡された。また支配方の者にも褒美が下されること御せ渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
443	延享4年	1747	6月24日	北の方の船一対が完成し、駄原から馬で届いたと孫三兵衛から申し出があった。島解由へ伝えたところ、さらに対注したいと船頭が、申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
444	延享4年	1747	6月24日	孫三兵衛から船の代金等として70文銭50日と銭4文を駄原の金屋原右衛門へ渡すよう、御用書へ申し出があった。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
445	延享4年	1747	6月25日	本城に使う材木は大坂本町で取るよう御せ付けられ、後出すため役人が本城へ召出され、家老から申し渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
446	延享4年	1747	7月8日	ちゃん壺月に使用するため、脚の裏6月を明日13日午後5時頃までに差し出すよう両町の年寄たちへ申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
447	延享4年	1747	7月9日	龜龜屋惣惣兵衛が申すには、府内駄原跡跡何右衛門は、追加された小形の船2対は、以前の船頭で造れるとのこと、2対を発注するよう申し渡した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
448	延享4年	1747	7月13日	府内駄原金屋原右衛門方から船頭町龜龜屋孫三兵衛方へ、本城に必要な船がそろそろ出来たと申し立てたので、御用の戸倉蔵頭へ伝えた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
449	延享4年	1747	7月14日	船の修繕は、孟蘭盆のため休みとした。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33
450	延享4年	1747	9月15日	本城のちゃん壺月のため出していた内町の与右衛門は、病氣になり自宅にこもっていたが、少し回復したので明日から出勤する予定である。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-33

文献史料記事一覧 (19)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
451	延享4年	1747	9月28日	再来年の藩主(高丘)の御入郡のため、来年からの御参る三の丸の修葺の詳細について、また米蔵も大蔵のため、来年からの修葺を担当する奉行について。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-22
452	延享4年	1747	11月9日	本城の古木や材木は本日(由山から)下したので、在浦から作業員を1000人程度出し、古材木を現らす片付けた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-33
453	延享4年	1747	11月9日	本城の修葺25日に定了。7・8日は古瓦を片付けた。今日は古材木を現らす片付け、両町在浦から作業員1000人の加勢があったので、米3合ずつを与えた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-33
454	延享4年	1747	11月10日	本城の修葺が完了し、古材木まで現らす片付けられたので、我々兩人(依久間藏右衛門、黄川上水兵衛)は今日から役所へ出勤する。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-33
455	延享4年	1747	11月11日	会所勤務が終わって本城へ登山した。家老が見分し、訪所の世話役、建設人、小頭などが参り、その後三の丸へ登城して家中の者から修葺成就の喜びを申し上げた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-33
456	延享4年	1747	11月26日	本城に使用した瓦を焼かせた瓦師の切畑村七兵衛が、古市村と上岡村地に小部屋を築門、黄川上水兵衛は今日から役所へ出勤する。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-22
457	延享4年	1747	12月11日	古市村野宮の下御殿16番・田畠29番は、先般御用瓦の焼き場として年貢を免除したので、そのまま免除とするよう申し付けた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-33
458	延享4年	1747		山城の櫓やすべての塀がひどく破損したので、これまでの道具を工面して、小型に立て直すよう指示された。	温故知新録	羽野家西持毛 7冊 西氏先書書	『温故』二 943
459	延享5年	1748	正月3日	山城に上がり、家老、郡代、目付からお祝いを申し上げた。作事奉行と大工棟梁は山城へ詰め。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-34
460	延享5年	1748	2月22日	去年の城修葺で精を出した、家中・家老・世話焼きの面々に対し御免を取らせた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-34
461	延享5年	1748	2月28日	城修葺に携わった、在浦の作業員に樽と肴が下された。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-34
462	延享5年	1748	2月28日	城修葺のお祝いとして、両町年寄・目付へ酒3斗、鯛5本を両町へ下し、しゃほこ酒道の世話をした大勢(豊)兵衛には金百疋を与えた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-34
463	寛延2年	1749	正月3日	取次以上が藩主へのお供をして山城へ上がり、その後三の丸で吸物、酒で祝いをした。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-35
464	寛延2年	1749	正月3日	山城に上がり、源十郎様をはじめ家老、郡代、目付からお祝いを申し上げた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-35
465	寛延2年	1749	7月6日	山城の本丸に二棟上式を無事に終えた。殿様も山へ上がり、餅や肴が格好良く出ま上がっているのを、満足された様子だった。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-35
466	寛延2年	1749	7月6日	殿様が山へ上がったときお供した者は、数日は山城へ詰め、見分が終わった後、三の丸へ下り、土曜と殿様福園のお祝いとして、お供をした者共と共に酒・肴・吸物が出る事になった。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-35
467	寛延3年	1750	正月3日	例年のお祝い、取次以上がお供をして山城に上がり、三の丸で祝いの儀式をして吸物と酒を頂戴した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-37
468	寛延3年	1750	正月3日	本城へは、書院から御に乗ってお上りになった。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-146
469	寛延3年	1750	正月3日	本城を現らす見分し、西の丸、二の丸、本丸外曲輪、北の丸の櫓の見分が済み、平橋に着座し、翌斗で祝いを下した。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-146
470	寛延3年	1750	正月3日	城に参り、三の丸の居間で浪江様と似た様者、吸物、酒で祝いをした。取次以上、目付、作事奉行、棟梁へ吸物と酒を下され、祝いをした。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-146
471	寛延4年	1751	正月3日	浪江様が山城へ上がり、家老、用人、郡代、目付も上がった。作事奉行と大工棟梁は先に来て詰っていた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-38
472	寛延4年	1751	正月3日	櫓をすべて見分し、平橋で翌斗を出し、茶を召し上がった。用人、郡代、家老からお祝いを申し上げた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-38
473	宝暦2年	1752	正月3日	本城へ上がり、三の丸で取次以上、目付、作事奉行へ吸物と酒を下された。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-39
474	宝暦2年	1752	正月3日	本城の西の丸、二の丸、本丸外曲輪と北の丸の櫓を見分し、平橋に着座して、翌斗で祝った。	佐伯藩政史料	御用日記	D-III-150
475	宝暦3年	1753	正月3日	本城へ登城し、家老、用人、郡代、作事奉行、大工棟梁も登城して同席した。浪江様も登城し、櫓を全て見分したのち平橋で翌斗を出して祝った。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-40

文献史料記事一覧 (20)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
476	宝暦4年	1754	正月3日	本城へ上りの取次以上、目付、作事方が詰めた。掃城、三の丸で祝いの吸物、酒を下された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-41
477	宝暦5年	1755	正月3日	例年どおりの家老・用人・郡代・目付・作事奉行・大工棟梁が城山へ登る予定だったが、大雪のため延期した。出立準備も登城しなかった。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-42
478	宝暦5年	1755	正月7日	本城へ家老・用人・郡代・目付が登った。作事奉行・大工棟梁は先に登って詰めていた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-42
479	宝暦6年	1756	正月3日	正月3日に取次以上が新年のあいさつを申し上げる際に振るわれる吸物・酒は、当年より吸物のやめとする。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-43
480	宝暦10年	1760	正月3日	本城へ上りの取次以上が参上して祝いを申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-46
481	宝暦11年	1761	正月3日	藩主高台は前年死去したが、例年のとおり、本城へ家老、番頭、用人、郡代、目付、作事奉行が登城した。櫓をすべて見分し、準備で闘争を出し、家老へお祝いを申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-47
482	宝暦13年	1763	3月29日	長瀬川の破損した川除土手45間の修復を、忠業(江波)に掛け合わせる。総工費3貫27匁のから見込みだが、資材などを吟味して少しでも引き下げる。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-37
483	宝暦13年	1763	3月29日	長瀬川の川除土手修復について、以下の通り見積もった。石1,418籠、石起作業員1,418人、石加藤222人、石調作業員1,418人、石加藤手伝い960人、作業員計2,084人で、総工費3貫27匁9分。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-37
484	宝暦13年	1763	4月2日	長瀬川の川除土手修復を備前石(直産)に掛けさせたところ、総工費30日となった。その他作業の仕様や期限、検査を定めた請負証文。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-37
485	宝暦13年	1763	4月2日	長瀬川の川除土手の普請に用いる石材の置き場を、東風隠谷下ノ鼻、屋敷谷下ノ鼻、三九郎谷下ノ鼻、小谷ノ鼻、大船置ノ鼻、長瀬ノ鼻、茶屋ノ鼻、鳩ヶ鼻ノ鼻に定めた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-37
486	宝暦13年	1763	6月6日	先日の洪水で破損した土手の修復は、以前に掛け合わせた備前石右加藤の武左衛門が、45分以内で可能だと申し、秋の出水まで期間もなく、夜々するよりも早く土手に仕上がるので、そのように申し付けた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-37
487	宝暦13年	1763	9月12日	先の洪水で破損した長瀬川の川除石垣田間について、土手の小口に築く石垣を備前の武左衛門にゆ味させ、総工費300日で掛け合わせた。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-37
488	宝暦14年	1764	正月27日	今月10日18時過ぎごろ、鞆頭町の鍛冶場から出火、風が強くと鞆頭町は残らず焼失した。翌11日30日に鎮火した。	温故知新録	宝暦日記	『温故』十一 p312
489	明和4年	1767	4月2日	大手町の内馬場御用地は往來の差し障りになるため、場所替えを命じられるべきか。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p56
490	明和4年	1767	4月28日	戸倉六郎兵衛の交代の者が出席してきた。因元の城内の馬場が悪く、同人の屋敷内の一部を明け替えるよう命じられた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p58
491	明和4年	1767	5月21日	藩財政の請求書のため、一纏にしていた表と裏の台所を別々にした方が都合が良いと相談し、殿に報告していた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p60
492	明和4年	1767	6月6日	この1、2年平給人たちが広間の取次の補佐役を務めるようになったが、用事が進まない為、以前のとお補佐役は指名する。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p61
493	明和6年	1769	7月28日	本日13時半に強い地震があったので、家老・番頭・御者共(黒木常右衛門・井内半のうら)・目付が会所へ出陣した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-55
494	明和6年	1769	7月28日	午後2時半頃に津波が来たと思われたので、会所へ出陣したところ、明は南西の男女が城内に集まり、賑わったことが原因だった。津波が来るまではまだ城内に入らないうつ、町年輩に申し付けた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-55
495	明和6年	1769	8月2日	先日の地震で城の石垣が壊れているのを見分するため、家老・番頭・御者共(黒木常右衛門・井内半)・目付が登城した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-55
496	明和6年	1769	9月10日	7月28日15時過ぎに強い地震があったので、津波が来ると思われた。長崎・松ヶ鼻・例形に人を詰めさせ、波が来れば果敢に固守しよう申し付けた。火の始末に注意し、変事に対応する者を会所に集めた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p104
497	明和6年	1769	9月10日	7月28日15時過ぎの地震の後、津波が来るという風聞により、藩十部組は三の丸へ登城し、夜中様子を見ていたが、異常はなかった。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p105
498	明和6年	1769	9月10日	28日の夜から翌朝まで強い風雨だったため、山城とその他の破損からの書付を調査した上で改めて申し送る。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p105
499	明和7年	1770	正月5日	大粒不雨や地震・雷害・大風雨が重なって生じた昨年の被害報告が届いた。本丸石垣の崩れ、高出丸塙ノ石垣の崩れと土台の沈下、三の丸門脇の石垣の崩れのほか、田畑や屋敷・土手・人家の被害。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-56
500	明和7年	1770	正月17日	12月29日3時過ぎに内町の中廻町から出火し、暴風のため消化できず、中廻町・古市町・中町・本町・鉄砲町を焼失した。9時過ぎに鎮火した。との知らせが届いた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p114

文献史料記事一覧 (21)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
501	明和7年	1770	2月24日	昨年の地震破損した本城の三の丸の修復願いの下書きの絵図を、幕府の絵筆の墨澤喜太夫に見ていただいた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p118
502	明和7年	1770	3月6日	伏拝城が地震により破損したから修復願いを申し上げるため、絵図を差し出したところ、月番老中がお受け取りなられた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p119
503	明和7年	1770	3月7日	昨日差し出された伏拝城修復は願いと初命じられた旨を、伺いの絵図面に付け札をして撤回があった。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p119
504	明和7年	1770	3月9日	因元の本城修復の願書と絵図面を差し出したところ、月番老中板倉俊守が首尾よく受け取られたので帰ってきた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p122
505	明和7年	1770	3月14日	去る昨日にお願ひ申し上げた因元の本城と三の丸の修復が願ひのとおり沙汰された。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p123
506	明和7年	1770	四6月3日	城の石垣の修理の許可が出た。数年前に備前から伏拝に移り住んだ、次三郎という者が巧者だとのことなので、吟味の上採用した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-56
507	明和8年	1771	正月3日	例年の通り、家老中・番頭・用人・郡代・目付が山城へ上がり参を先ず見分したあと、平輪にて新年の祝いを述べた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-57
508	明和8年	1771	7月8日	番頭の井河千から、三の丸修復のため、奉行として御用人の長谷川園右衛門と当役頭者(佐久間伸・斎藤南上)に御せられたこと知れた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-57
509	明和8年	1771	9月22日	家中のうち小性以上が登城し、東年番主が帰国するので城の修復は手続に行きよう、家老から申し渡された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-57
510	明和9年	1772	正月3日	正月日に山城へ上がる予定だったが、前日の雨にお道が悪くなっているので延期する。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
511	明和9年	1772	正月25日	東年番が初入りをお召るで、三の丸を今年の春から急いで修復を命じられ、奉行を長谷川園右衛門に命じられた。	温故知新録	明和日記	『温故』十二 p178
512	明和9年	1772	正月29日	三の丸の修復奉行に用人の長谷川園右衛門と番者(黒木常宮・井河生)が御せつけられた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
513	明和9年	1772	2月朔日	三の丸の修復が今日から始まった。仲(佐久間)が修復場所へ詰め、初日は兩人(仲・斎藤南上)とも午前四時に登城した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
514	明和9年	1772	7月8日	三の丸修復で、時節柄竹木を伐るのはいくないので、当分は大工を減らし、奉行3人のうち、1人ずつ半日交代で始めること。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
515	明和9年	1772	8月7日	城の修復を見分するために、番頭・郡代・目付・作事奉行が城を出た後に登城した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
516	明和9年	1772	11月2日	三の丸の修復奉行の長谷川園右衛門が、江戸へ行くための早船がなかったため、今は場所へ番者共(黒木常宮・井河生)が交代で詰めている。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
517	安永2年	1773	四9月10日	三の丸修復が完了した。番頭・目付が見分し、番者(黒木常宮・作事奉行吉田・山田)と修理に関わった者、大工頭兼倉助・長左衛門が同席した。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-58
518	安永2年	1773	7月1日	三の丸修復の祝儀として、奉行をはじめ修復にあたった者たちに褒美が下された。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-59
519	安永2年	1773	4月17日	三の丸の修復が残らず出来たこと、さらに大坂の川御座船の修復がようやく出来たことを言ってきた。	温故知新録	安永日記	『温故』十三 p24
520	安永2年	1773	8月12日	鶴は書院へ着座し、小林左衛門北の取次以上が太刀・目録によって挨拶を申し上げ、参が下された。	温故知新録	安永日記	『温故』十三 p42
521	安永2年	1773	8月28日	長谷川・佐久間・斎藤は三の丸の修復奉行として精を出して勤めたため、廻縁から褒美を下された。	温故知新録	安永日記	『温故』十三 p44
522	安永2年	1773	8月28日	下川七郎右衛門・穴見只七を呼び出し、本城やその他の修復に精を出して勤めたので金300疋ずつを下されることを申し渡した。	温故知新録	安永日記	『温故』十三 p44
523	安永2年	1773	9月2日	廻縁が山城へ初めて上がり、城中を先ず見分した。ご祝儀として詰めていた取次に酒と食べ物が届けられたので、直にお申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-59
524	安永3年	1774	正月3日	廻縁が本城へ上がるので、取次以上が先に上がり詰めた。その後下へ降りて、取次以上が揃って新年のお喜びを申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用日記	D-IV-60
525	天明6年	1786	11月13日	鶴之間での行状について、奉行(屋子)・足軽ではわからないので仏間へ囃台を差し出す節は、仏間の行状は鶴之間の取次をまたいで聞くこと。	温故知新録	天明日記	未刊行

文献史料記事一覧 (22)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
526	天明8年	1788	10月3日	真賢寺がこの度出陣したのでご機嫌向のため延期したが、機嫌は体調が悪く、若殿様 が書院へ出陣された。役人・取次も出陣し、座敷において料理が下された。	温故知新録	天明日記	未刊行
527	寛政8年	1796	12月13日	城の修繕場所にて、番頭達が見分に来たのに、早出番の安藤番右衛門が城下になっ た。理由は早出番の石井隼左衛門が不快にお番右衛門に頼んで引き越らされたた めである。兩人には不評につき、追進を命じた。	温故知新録	寛政日記	未刊行
528	寛政10年	1798	正月29日	1日時過ぎに山中の閉居者左衛門衛門も出陣した。北東の風が強く各地に飛び火し、多 くの役所や町町の町屋など38軒が焼失した。船藏も焼失したが、船は被災から免れ た。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-84
529	寛政10年	1798	2月29日	先月29日に閉居者左衛門屋敷で出火し、北東の風が激しく大火になった。城内の被害 はないが、家中屋敷や町屋の多きが焼失した。	温故知新録	寛政日記	未刊行
530	享和2年	1802	7月21日	家老の藩主入部のため、明日から三の丸修葺・御召御新造・馬屋建て替えを行う。普 請奉行に赤沢・土屋、作事奉行に川野・田原、勘定方に岡・大崎・山内を任命した。	温故知新録	享和日記	未刊行
531	享和3年	1803	正月10日	普請奉行の赤沢忠兵衛・土屋六右衛門から、明日日々に普請を開始すると家老へ 報告があった。	温故知新録	享和日記	未刊行
532	享和4年	1804	正月10日	作事奉行に三の丸と馬屋の普請を命じたところ、その他にも持ち場が多く、今は田 原が引退して川野一人となって業務に差し支えるので、あらかじめ完成した三の丸・馬屋 普請については役を解く。	温故知新録	享和日記	未刊行
533	享和3年	1803	9月15日	赤沢忠兵衛・土屋六右衛門は、去年からの三の丸普請で不正があったため解任し、赤 沢は取次役に土屋は召置いたい処分をした。	温故知新録	享和日記	未刊行
534	文化元年	1804	2月11日	山城の天守に壊れていた鉄炮は、これまでは隠し居て雨から守っていたが、ある時 間からは隠し居て雨が降りてきたので、武器奉行と作事方へ申し渡した。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-IV-89
535	文化元年	1804	7月17日	6月25日に本城両虎口の門脇の堀・二の丸構脇の堀や家中の土蔵に落雷があり、曲 輪内を見分けた結果、被害はなかった。雷災がこれ以上起きないよう、大日寺不動 で祈禱を行った。	温故知新録	文化日記	未刊行
536	文化元年	1804	8月30日	8月25日から降り出した雨により、昨夜20時半に角石より下十数町が浸水し城が城下 に入った。山中の者は山の手へ避難した。船藏も浸水し船に被害はなかったが、城下 本城や三の丸に大きな被害が出た。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-70
537	文化元年	1804	9月1日	一昨日の大雨による被害は、山城にあった多くの構内や城門の屋根瓦と番所や堀・金 藏の堀・三の丸御殿の屋根や庭園の樹木、黒門近くの石垣などである。	佐伯藩政史料	御仕置帳	D-V-70
538	文化元年	1804	12月31日	鉢巻御城のたの行事を省略している期間中は、大子門を年始の飾りつけを行い、御 手・橋下・玄間・本城は七五三(もしくは七)で飾り付けをした。	温故知新録	文化日記	未刊行
539	文化2年	1805	5月1日	会所の建て替えにあたり、以後は建物を三軒御役所と呼ぶこと。4月1日からの役所の 御座敷を急務の運び御せ付け、橋を出すよう申し伝えた。	温故知新録	文化日記	未刊行
540	文化2年	1805	5月3日	端午の節句で、これまで佐伯城内外の悪所を指していた昌蓮について、徳助のため今 度は大子門・御手門・表・奥・居間・縁側御・山城西門・会所門とする。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-90
541	文化5年	1808	3月21日	2月25日に白幡大明神社内にある稲荷宮が城内へ運座した。との書状が佐伯より届い た。	温故知新録	文化日記	未刊行
542	文化6年	1809	12月29日	佐伯において今年3月18日頃に城下町家より出火し、足軽小屋や町屋が焼失した。翌 日6時頃に鎮火し、城内は被害がないとのこと。	温故知新録	文化日記	未刊行
543	文化8年	1811	5月20日	藩士の系譜についてお尋ねがあり、今回は系譜の写しも提出することとしたが、元和 3年5月25日に一火が焼失したため旧記は焼失し、明和・享保も屋敷が焼失して旧記 巻を失っているとを説明した。	温故知新録	文化日記	未刊行
544	文政6年	1823	正月3日	例年の通り、家老・番頭・用人・当役・目付・作事奉行が城山へ登り佛を拝し見分 した上、平橋で家老と共に新年の祝いをした。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-105
545	天保4年	1833	正月3日	例年のとおり、本城へ家老以下の役人と作事奉行が登出して佛を見分し、平橋で御 斗を出し、出陣者が家老へお祝い申し上げた。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-115
546	天保6年	1838	正月3日	總藩が書院から奥に乗って登山する前に、家老・番頭・用人・取次以上・医師・作事奉 行が先に乗った。佛を見分したのち、平橋にて新年の祝いを述べ、下山した。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-120
547	天保13年	1842	正月3日	總藩が書院から御座敷で城山に乗った。その前に家老・中老・用人・当役御代作事奉 行・目付・取次以上・医師・作事奉行が登った。佛を見分した後、平橋で新年の祝いを したのち下山した。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-124
548	弘化2年	1843	正月3日	道が悪いので、山城へ登るのは延期する。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-126
549	弘化2年	1843	正月8日	家老中を以て役人と作事奉行が登り、佛の見分を終え、平橋で新年の祝いを申し上 げた後、下山した。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-126
550	嘉永元年	1848	正月3日	例年の通り、正月3日に本城へ登り、取次以上の目付・医師たちが例年の場所にて依 禱を行い、佛を拝し見分したのち下山した。	佐伯藩政史料	那方町方御用 日記	D-IV-127

## 文献史料記事一覧 (23)

番号	年(和暦)	西暦	月日	大意・概要	史料分類	史料名	巻号・頁 史料番号
531	嘉永2年	1849	正月3日	例年の通り、家老中をはじめ役人・作事奉行が登山した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-127
532	嘉永4年	1851	正月3日	例年の通り、城山へ登られ、新年の祝をした後下山した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-130
533	嘉永5年	1852	正月3日	例年の通り、城山へ登られ、新年の祝をした後下山した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-131
534	安政元年	1854	正月3日	例年の通り、正月3日に城山へ登られた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-132
535	安政2年	1855	正月3日	例年の通り、正月3日に家老たちをはじめ、役人や作事奉行が登山した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-133
536	安政2年	1855		発生した安政の大地震で、城内の被害の様子をまとめたもの	佐伯藩政史料	大地震の節儀 前後々警守七 日録	雑-17-10
537	安政6年	1859	正月3日	請役人が本城へ登山した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-135
538	元治2年	1865	正月3日	雨天のため登山を延期した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-136
539	慶応2年	1866	正月3日	天候不順のため登山を延期した。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-137
560	慶応2年	1866	正月9日	乗物を使っでの登山は、雨天により延期となった。中小姓以上の給人、警備一統の支度については嘉永5年正月に規定されていたが、文久3年4月22日の規定改定には、前項を修正し書き定められた。	佐伯藩政史料	郡方町方御用日記	D-IV-137

※ 巻号・頁・資料番号については以下のとおりである。

・温故知新録の記事は、翻刻事業により刊行済みの『佐伯藩史料 温故知新録』のシリーズ番号と掲載頁を省略して記載し、報告書執筆時点で未刊行の記事は未刊行と記載した。

・例年佐伯藩史料 温故知新録第3集 p.297 → 『温故』三 p.297

・佐伯藩政史料の記事は、佐伯市教育委員会が付した資料番号を記載した。



佐伯新聞  
記事一覽

## 佐伯新聞記事一覧(1)

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
1	大正2年	1913	11月16日	お伽新聞 郷土小史 鶴谷城	35号5面
2	大正2年	1913	12月21日	東西南北 城山の大神	40号3面
3	大正3年	1914	1月1日	旧三の丸	41号2面
4	大正3年	1914	2月15日	公会堂管理及使用規定	47号2面
5	大正3年	1914	2月15日	公会堂貸借契約	47号2面
6	大正3年	1914	4月5日	校風の樹立	53号1面
7	大正3年	1914	4月26日	お伽新聞 城山の新緑	56号6面
8	大正3年	1914	8月9日	今昔物語 佐伯学校 上	71号1面
9	大正4年	1915	1月10日	今昔物語 西南戦争 上	92号1面
10	大正4年	1915	1月10日	佐伯校水浴場	92号5面
11	大正4年	1915	3月10日	今昔物語 佐伯の大木 下	100号1面
12	大正4年	1915	3月14日	佐中の卒業生 送別会と謝恩会	101号5面
13	大正4年	1915	4月11日	今昔物語 安政の大地震 一	105号1面
14	大正4年	1915	4月11日	昭憲皇太后遙拜式	105号2面
15	大正4年	1915	4月25日	佐伯町の発展策について(三)	107号3面
16	大正4年	1915	5月30日	今昔物語 松岡の吟詠	112号1面
17	大正4年	1915	5月30日	怪しき僧侶 遂に城山にて捕獲す	112号7面
18	大正4年	1915	6月20日	今昔物語 大力自慢	115号1面
19	大正4年	1915	7月18日	読者倶楽部	119号6面
20	大正4年	1915	8月1日	涼しい木陰	121号4面
21	大正4年	1915	9月5日	露営の記 城山山頂にて	126号4面
22	大正4年	1915	9月5日	城山の怪声 正体発見者へ懸賞 勇士探検の爲め登山	126号5面
23	大正4年	1915	10月10日	好個の記念	131号1面
24	大正4年	1915	10月17日	城山路の修築 軍人会の記念作業	132号5面
25	大正4年	1915	10月24日	今昔物語 城山の話	133号1面
26	大正4年	1915	10月24日	城山の飛行機見物	133号2面
27	大正4年	1915	10月24日	城山の道普請	133号3面
28	大正4年	1915	10月24日	城山公園工事 雅趣に富む遊覧地	133号7面
29	大正4年	1915	11月28日	此次は何か	137号1面
30	大正4年	1915	11月28日	美しき作業 城山公園の大掃除	137号5面
31	大正4年	1915	11月28日	お伽新聞 世間まなし	137号8面
32	大正4年	1915	12月12日	公園を愛護せよ	139号1面
33	大正5年	1916	1月1日	東西南北 登山と水泳	142号11面
34	大正5年	1916	2月13日	佐伯より	148号5面
35	大正5年	1916	2月20日	読者倶楽部	149号6面

## 佐伯新聞記事一覧（2）

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
36	大正5年	1916	4月16日	城山だんご 城山に茶屋が出来る	156号5面
37	大正5年	1916	4月23日	明神様のお祭 三の丸は相応しい	157号5面
38	大正6年	1917	3月25日	城山為めにやらぐ 歓呼熱叫の声	204号5面
39	大正6年	1917	6月10日	海軍々楽隊上陸 喇叭隊、無線電信隊	215号5面
40	大正6年	1917	6月24日	日豊線工事近況 城山隧道開鑿困難 香匠鉄橋工事は九月以後	217号5面
41	大正6年	1917	9月9日	草鞋脚絆で握り飯を持って 鶴城趾に集まる青年四千	228号5面
42	大正6年	1917	10月28日	公園を完成せよ	235号1面
43	大正7年	1918	1月27日	城山公園新道計画	248号2面
44	大正7年	1918	3月17日	東京大阪合併の大相撲一行	255号3面
45	大正7年	1918	4月14日	佐伯町誌抄(17)古址名勝 一 鶴ヶ城跡	258号4面
46	大正7年	1918	4月28日	西南戦記 堅田遺聞 9	260号1面
47	大正7年	1918	4月28日	読者倶楽部	260号6面
48	大正7年	1918	5月12日	城山の頂上に 宮地嶽さんを	262号5面
49	大正7年	1918	5月12日	読者倶楽部	262号6面
50	大正7年	1918	5月19日	浅慮を排す	263号1面
51	大正7年	1918	5月19日	宮地嶽講社問題に就て	263号1面
52	大正7年	1918	5月26日	以ての外の御事なり(上)鶴谷外史	264号1面
53	大正7年	1918	5月26日	宮地嶽講社問題	264号1面
54	大正7年	1918	6月2日	公開状 以ての外の御事なり(下)鶴谷外史	265号1面
55	大正7年	1918	6月2日	宮地嶽講社問題 町会側の弁明 委員会の顔末	265号1面
56	大正7年	1918	6月2日	宮地嶽講社問題 町会側の弁明 町会の決議に非ず	265号1面
57	大正7年	1918	6月2日	城山にて 独歩を憶ふ	265号3面
58	大正7年	1918	6月9日	宮地嶽案処分	266号1面
59	大正7年	1918	6月9日	宮地嶽問題に就て	266号1面
60	大正7年	1918	6月9日	神社を鶴城山頭に(上)	266号4面
61	大正7年	1918	6月9日	読者倶楽部	266号6面
62	大正7年	1918	6月16日	神社を鶴城山頭に(下)	267号4面
63	大正7年	1918	6月23日	池船橋畔	268号1面
64	大正7年	1918	8月25日	ヒトノウサ	277号3面
65	大正7年	1918	11月3日	万歳の声天地に満つ 佐伯の菊花節 祝奉の第一声は城山にて	287号3面
66	大正7年	1918	11月3日	読者倶楽部	287号4面
67	大正7年	1918	11月24日	神社に就て	290号1面
68	大正7年	1918	12月1日	神社に就て(二)	291号1面
69	大正9年	1920	9月26日	軍医団原地講話	387号2面
70	大正10年	1921	5月1日	愚見の一、二	418号1面

## 佐伯新聞記事一覧（3）

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
71	大正10年	1921	5月29日	寸馬豆人	422号2面
72	大正10年	1921	8月21日	佐伯町で計画中の公会堂と住宅	434号3面
73	大正10年	1921	8月28日	公会堂建設諮問案	435号3面
74	大正10年	1921	9月18日	日林社事務所	438号2面
75	大正10年	1921	12月4日	偶感五題	449号1面
76	大正11年	1922	2月5日	読者倶楽部	458号4面
77	大正11年	1922	2月12日	読者倶楽部	459号4面
78	大正11年	1922	2月19日	佐伯軍人会の城山新道路案	460号3面
79	大正11年	1922	4月30日	読者倶楽部	470号4面
80	大正11年	1922	6月18日	富久教諭の発見 自生何首烏 三の丸の石垣で採集	477号3面
81	大正11年	1922	12月24日	城山の眺望は 天下に稀だと 鈴木大林区署長賞賛す	504号3面
82	大正12年	1923	2月11日	茶目君大挙して 城山の孔雀狩 片岡氏秘蔵の愛禽	511号3面
83	大正13年	1924	2月3日	城山道路開鑿	561号2面
84	大正13年	1924	2月10日	寸馬豆人	562号2面
85	大正13年	1924	3月16日	城山に開鑿する 記念登山道 工兵隊の来援をも請ふ	567号3面
86	大正13年	1924	3月23日	城山登山道 最後の踏査 九尺幅で全長七八町	568号3面
87	大正13年	1924	5月11日	城山道路の工事計画替 工兵隊の来援不可能	575号3面
88	大正13年	1924	5月18日	城山新道路 愈々起工 佐伯軍人青年の社会奉仕	576号3面
89	大正13年	1924	5月25日	御慶事記念 城山新道路 四百五十間全通す	577号3面
90	大正13年	1924	6月1日	吾等の共有 城山保護の責任	578号1面
91	大正13年	1924	6月1日	慶典記念事業	578号2面
92	大正13年	1924	6月1日	工事着々進行の 城山公園 新装正に成らんとす	578号3面
93	大正13年	1924	6月8日	城山官有(地カ)私下	579号2面
94	大正13年	1924	6月8日	お節句の城山登山者 約七百名以上に及ぶ	579号3面
95	大正13年	1924	6月8日	女学生の城山掃除	579号3面
96	大正13年	1924	6月15日	登城山公園	580号1面
97	大正13年	1924	6月15日	官地使用出願	580号2面
98	大正13年	1924	6月15日	投網を打って 雌池で鯢魚(さんせうを)	580号3面
99	大正13年	1924	6月15日	城山茶店に泥棒	580号3面
100	大正13年	1924	6月22日	城山公園で 祝賀宴遊会 護憲派の内閣成立祝ひ	581号3面
101	大正13年	1924	7月13日	城山の道直し 白濁道開通 佐伯消防船岡軍人出動	584号3面
102	大正13年	1924	7月20日	城山道竣工式	585号2面
103	大正13年	1924	7月27日	城山道竣工式 海軍々楽隊の演奏もある	586号3面
104	大正13年	1924	7月27日	伏見宮殿下 城山と小平に御微行	586号3面
105	大正13年	1924	8月3日	公園道竣工式	587号1面

## 佐伯新聞記事一覧（４）

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
106	大正13年	1924	8月3日	城山公園の道路竣工式 工費七百五十円十四銭	587号3面
107	大正14年	1925	3月15日	城山裏の小火 大山火事の翌日で騒ぐ	617号3面
108	大正14年	1925	3月22日	毛利家財閥の今年度の事業 公園植樹や優等生表彰等	618号3面
109	大正14年	1925	4月5日	桜と楓の苗木 城山公園に植えられた	620号2面
110	大正14年	1925	4月5日	咲きも残らず 散りも始めぬ桜(のか)昨今	620号3面
111	大正14年	1925	6月14日	城山茶店荒し	630号3面
112	大正14年	1925	11月15日	城山記念道路	652号1面
113	大正14年	1925	11月15日	奉公道路苗木	652号2面
114	大正14年	1925	12月6日	城山新橋竣工	655号2面
115	大正15年	1926	1月10日	三の丸大弓場	659号2面
116	大正15年	1926	3月28日	鶴谷女学校 三の丸に移転 時期は来月二十日ごろ	670号3面
117	大正15年	1926	5月30日	三の丸射撃場	679号2面
118	大正15年	1926	9月12日	閑話	694号3面
119	大正15年	1926	10月24日	まよかつた 城山の昼火事 火因は子供の焚火?	700号3面
120	昭和2年	1927	1月30日	閑話	713号3面
121	昭和2年	1927	4月10日	銅像を見合せ毛利神社建立 改めて具体案を協議	723号3面
122	昭和2年	1927	6月19日	鶴谷女学校舎 三の丸下に増築 現校舎と併用する筈	733号3面
123	昭和2年	1927	7月17日	鶴谷女校増築	737号2面
124	昭和2年	1927	8月14日	養賢寺の流瀧頂 大日寺の川施餓鬼	741号3面
125	昭和2年	1927	9月4日	毛利神社建設	744号2面
126	昭和2年	1927	10月9日	鶴谷女学校 最初のバザー 落成式と共に明年一月頃	749号3面
127	昭和2年	1927	11月27日	毛利神社一件	756号2面
128	昭和3年	1928	1月8日	城山で義士会	761号3面
129	昭和3年	1928	6月10日	三の丸の午臨	783号2面
130	昭和3年	1928	6月24日	毛利社地鎮祭	785号2面
131	昭和3年	1928	8月26日	社殿造営準備	794号2面
132	昭和3年	1928	9月16日	城山官地払下	797号2面
133	昭和3年	1928	9月16日	社殿基礎工事	797号2面
134	昭和3年	1928	10月28日	寛龍公を祀る城山毛利神社 内務大臣より建設許可	803号3面
135	昭和3年	1928	11月4日	毛利社鎮座式	804号2面
136	昭和4年	1929	2月3日	城山公園の道路手入れ 青年総動員でやる	816号3面
137	昭和4年	1929	2月17日	城山々道改修	818号2面
138	昭和4年	1929	3月4日	毛利神社進工	820号2面
139	昭和4年	1929	3月31日	城山に吉野桜	824号2面
140	昭和4年	1929	3月31日	藩祖高政公へ贈位の策命 六日毛利社鎮座祭	824号3面

## 佐伯新聞記事一覧（5）

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
141	昭和4年	1929	4月7日	毛利子歓迎会	825号2面
142	昭和4年	1929	4月7日	挨拶とご奉祭文	825号2面
143	昭和4年	1929	4月7日	高政公墓前に策命使参向 壮厳盛大に奉告祭執行	825号3面
144	昭和4年	1929	4月7日	天主台上に神靈鎮座 晴れやかな毛利祭典	825号3面
145	昭和4年	1929	4月21日	城山西の山火事	827号2面
146	昭和4年	1929	11月10日	毛利社落成式	856号2面
147	昭和4年	1929	11月17日	毛利社落成式	857号2面
148	昭和4年	1929	11月24日	旨令奉戴の青年記念式 弘暎城山々嶺にて	858号3面
149	昭和5年	1930	3月30日	城山道の作業 青年団の春の行事	875号3面
150	昭和5年	1930	5月24日	城山で天気予報	883号3面
151	昭和5年	1930	6月1日	内務部長巡視	884号2面
152	昭和5年	1930	6月1日	男枕と蓑一枚	884号3面
153	昭和5年	1930	9月21日	城山境界争ひ 毛利家対河庄氏	900号3面
154	昭和5年	1930	10月12日	毛利社臨時祭	903号2面
155	昭和5年	1930	11月9日	城山々上で店員慰安会 表彰された七君	907号3面
156	昭和5年	1930	11月16日	毛利社秋季祭	908号2面
157	昭和6年	1931	3月29日	奇特な老人 城山に楓を植込む	926号3面
158	昭和6年	1931	3月29日	城山参道修理	926号3面
159	昭和6年	1931	4月12日	毛利神社春祭	928号3面
160	昭和6年	1931	4月15日	佐伯の春を彩る 五所社春祭 けふ三の丸へ御神幸	号外号1面
161	昭和6年	1931	4月19日	五所明神社 春季大祭 全町祭気分で賑ふ	929号3面
162	昭和6年	1931	7月19日	勤王志士の碑 城山麓に建設? 建設委員会開かる	942号3面
163	昭和6年	1931	9月13日	毛利社秋季祭	950号2面
164	昭和6年	1931	9月20日	空陸報告祭 十六日毛利神社	951号2面
165	昭和6年	1931	10月4日	新佐伯を夢見て(6)	953号3面
166	昭和6年	1931	11月8日	毛利神社秋祭	958号2面
167	昭和6年	1931	11月15日	毛利社秋季祭	959号2面
168	昭和6年	1931	11月22日	町青年団の城山参道修理 夜は弁論大会	960号3面
169	昭和6年	1931	11月22日	山頂秋晴れて 神楽に賑ふ 城山毛利神社例祭	960号3面
170	昭和6年	1931	11月29日	読者倶楽部	961号4面
171	昭和7年	1932	1月1日	伸び行く佐伯町のプロフィール	965号7面
172	昭和7年	1932	3月13日	大佐伯の都市計画に就て(4)	975号2面
173	昭和7年	1932	3月13日	毛利神社境内拡張	975号3面
174	昭和7年	1932	3月27日	城山に桜樹 きのふ二百本を植ゆ	977号3面
175	昭和7年	1932	3月27日	青年団城山道改修	977号3面

## 佐伯新聞記事一覧（6）

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
176	昭和7年	1932	4月3日	毛利神社例祭	978号2面
177	昭和7年	1932	4月3日	けふ青年の城山道路掃除 及び対川原木競技会	978号3面
178	昭和7年	1932	4月10日	毛利社春季祭	979号2面
179	昭和7年	1932	4月10日	桜花見ごろ 三の丸は夜桜の妍	979号3面
180	昭和7年	1932	5月29日	寸馬豆人	986号2面
181	昭和7年	1932	8月7日	配水池は 杉谷の裏山 岡村水道主任技師語る	996号3面
182	昭和7年	1932	9月18日	毛利社神幸祭	1002号2面
183	昭和7年	1932	9月25日	吾等の佐伯と都市計画(9)	1003号1面
184	昭和7年	1932	9月25日	毛利神社 初会の御演出 来月中旬三日間	1003号3面
185	昭和7年	1932	10月2日	城山に登りて思ふ	1004号1面
186	昭和7年	1932	10月9日	よもやま	1005号3面
187	昭和7年	1932	10月16日	日和を待つ 毛利社大祭 昨十五日執行さる	1006号3面
188	昭和7年	1932	10月30日	吾等の佐伯と都市計画(14)	1008号1面
189	昭和7年	1932	10月30日	水道工事着手	1008号2面
190	昭和7年	1932	11月6日	吾等の佐伯と都市計画(15)	1009号1面
191	昭和7年	1932	11月13日	吾等の佐伯と都市計画(16)	1010号1面
192	昭和7年	1932	11月20日	毛利神社例祭	1011号2面
193	昭和7年	1932	11月27日	吾等の佐伯と都市計画(18)	1012号1面
194	昭和7年	1932	12月4日	城山の配水池 竣工は来春二月	1013号2面
195	昭和8年	1933	4月2日	佐青総動員 城山登山道の手入れ	1029号3面
196	昭和8年	1933	4月2日	毛利神社春祭	1029号3面
197	昭和8年	1933	4月23日	配水池の工事 コンクリ打ち始まる	1032号3面
198	昭和8年	1933	10月15日	行列賑々しくけふ神幸祭 三日間賑ふ毛利神社祭	1057号3面
199	昭和8年	1933	10月15日	登山道の手入れ	1057号3面
200	昭和8年	1933	10月22日	毛利神社大祭 中の日には相撲、剣道	1058号3面
201	昭和8年	1933	11月5日	仮装犯人捜査 城山で佐伯署の演習	1060号3面
202	昭和9年	1934	1月1日	再び佐伯市民に懇ふ(承前) 特に新町会議員諸賢へ	1068号7面
203	昭和9年	1934	4月22日	城山に遙拝所	1084号3面
204	昭和9年	1934	7月22日	城山公園板橋架替へ	1097号3面
205	昭和9年	1934	10月7日	南豊協会秋場所 二十一日三の丸で	1108号3面
206	昭和9年	1934	10月14日	毛利社臨時祭 あす神幸祭 催し物はない	1109号3面
207	昭和9年	1934	10月21日	けふ角力大会 三の丸で協会秋場所	1110号3面
208	昭和9年	1934	10月21日	毛利神社大祭	1110号3面
209	昭和9年	1934	11月18日	毛利神社例祭	1114号3面
210	昭和9年	1934	11月18日	令旨奉戴記念式	1114号3面

## 佐伯新聞記事一覧（7）

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
211	昭和10年	1935	6月23日	けふ独歩忌 城山山頂に建碑の議	1145号3面
212	昭和10年	1935	10月6日	毛利社臨時祭 力を入れる船頭町区 岩戸神楽も奉納	1160号3面
213	昭和10年	1935	10月13日	毛利神社秋祭 岩戸神楽・奉納相撲	1161号3面
214	昭和10年	1935	10月13日	城山参道修繕	1161号3面
215	昭和10年	1935	10月20日	毛利神社祭 恋なく了る 子爵夫妻も参列して	1162号3面
216	昭和10年	1935	11月24日	青年学校査閲	1167号3面
217	昭和11年	1936	1月1日	鶴谷城の現状想像図のできるまで	1172号5面
218	昭和11年	1936	1月12日	城山の植物研究と豊後南部分 布図作製	1173号1面
219	昭和11年	1936	1月26日	配水池に御臨	1175号2面
220	昭和11年	1936	2月23日	婚礼冗費節約 三の丸別殿を建立 神前結婚を奨励	1179号3面
221	昭和11年	1936	3月8日	おもひ出のふる里よ—2—	1181号1面
222	昭和11年	1936	3月15日	おもひ出のふる里よ—3—	1182号1面
223	昭和11年	1936	4月5日	三の丸球場	1185号3面
224	昭和11年	1936	4月19日	写真説明	1187号3面
225	昭和11年	1936	5月17日	毛利社大祭を夏祭に改めよ	1191号1面
226	昭和11年	1936	5月17日	独歩碑を建つ	1191号2面
227	昭和11年	1936	5月17日	海協記念行事	1191号3面
228	昭和11年	1936	6月7日	独歩碑製作中 灰石材でさきやかに	1194号3面
229	昭和11年	1936	6月21日	独歩の碑 二十三日城山で座談会	1196号3面
230	昭和11年	1936	6月28日	独歩忌座談会 城山の記念碑前で	1197号3面
231	昭和11年	1936	10月18日	毛利社臨時祭 きふふ終る	1213号3面
232	昭和11年	1936	11月1日	南豊大相撲 来る七日三の丸で	1215号3面
233	昭和11年	1936	11月8日	明治館遷拜式	1216号2面
234	昭和11年	1936	11月8日	城山雑木伐採 西谷方面一帯	1216号3面
235	昭和11年	1936	11月8日	南豊相撲けふ秋場所 朝八時から三の丸で	1216号3面
236	昭和11年	1936	11月29日	旧跡の破壊と郷党の関心	1219号1面
237	昭和12年	1937	2月14日	鶴谷女学校 城明渡の幅み 新校舎増築の計画	1229号2面
238	昭和12年	1937	2月21日	三の丸一帯の公園化計画 実施期は未予定	1230号3面
239	昭和12年	1937	4月4日	東西南北 毛利神社例祭	1236号2面
240	昭和12年	1937	4月4日	東西南北 城山道路掃除	1236号2面
241	昭和12年	1941	5月2日	配水池域のつつじ満開 ここ当分一般に開放	1240号3面
242	昭和12年	1937	8月15日	三の丸明渡は年末にならう 鶴谷女校増築工事	1255号3面
243	昭和12年	1937	10月10日	青年総出で祭典執行 毛利神社の秋季大祭	1263号3面
244	昭和12年	1937	10月17日	毛利神社祭典	1264号2面
245	昭和12年	1937	11月14日	鶴女校新校舎 近く三の丸引あげ	1268号3面



## 佐伯新聞記事一覧(8)

番号	年(和暦)	西暦	月日	記事見出し	号・面
246	昭和12年	1937	11月14日	毛利神社例祭	1268号3面
247	昭和12年	1937	11月21日	毛利社例祭に筑波候来町 喜代子夫人も久々で	1269号2面
248	昭和13年	1938	1月1日	新年	1274号1面
249	昭和13年	1938	3月6日	軍友集まれ 十日三の丸で総会	1283号2面
250	昭和13年	1938	3月13日	陸軍記念日に老兵士の集ひ 佐伯軍友会の行事	1284号3面
251	昭和13年	1938	4月3日	毛利神社例祭	1287号2面
252	昭和13年	1938	4月3日	東西南北 城山道路掃除	1287号2面
253	昭和13年	1938	4月3日	東西南北 佐伯署員登山	1287号2面
254	昭和13年	1938	7月10日	東西南北 三の丸松大枝	1301号2面
255	昭和13年	1938	8月21日	副会長辞任や新事業計画で 佐伯婦人会漸く多事	1307号2面
256	昭和13年	1938	9月11日	独語(四) 毛利社祭典	1310号1面
257	昭和13年	1938	10月23日	気ぜわしい毛利社秋祭 青年団総出で奉仕	1316号2面
258	昭和13年	1938	11月27日	歌と人と私(9)	1321号1面
259	昭和13年	1938	12月4日	諸会合に三の丸供用 但し若干の席料を徴す	1322号3面
260	昭和13年	1938	12月18日	友を偲びて	1324号1面

佐伯市文化財調査報告書 第12集  
**佐伯城跡総合調査報告書**  
**資料編**

2022年3月31日

発行 佐伯市教育委員会

〒876-0831 大分県佐伯市大手町1丁目2番25号  
(佐伯市歴史資料館内)

TEL 0972-22-4234 FAX 0972-22-0701

印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ 佐伯営業所

〒876-0823 大分県佐伯市女島9032

TEL 0972-23-0170 FAX 0972-23-0171

